

第一章 はじめに

1.1. 研究の背景

2000年民進党の陳水扁候補者が総統選挙に当選したことにより、戦後、50年以上続いた国民党統治が終わった。政権が国民党以外の政党に移ったことで台湾アイデンティティを前面に打ち出す「本土化¹時代」が到来したと考えられた²。そのような背景の中、出自や所属している政党にかかわらず、政治的な活動をするときには、ホーロー語³や客家語、北京語⁴を混用した言語使用に注目する政治家は珍しくない。なぜそのような言語使用に注目するかというと、それは聴衆に支持を求めるからに他ならない。さらに、選挙の場面には一つの演説は何語で話すことによって、その演説のうしろには常に特定の目的が含まれている。例えば「台湾人」ということばが何語で語られるかによって、それが指す意味内容が異なる場合がある。丸川（2000）は『台湾人』と言う主語が閩南語で発話された場合には、それは直ちに閩南語使用者と同義の意味を帯びてしまう福佬人ナショナリズムに訴えていたことは想像に難くないのである」（丸川 2000：233）と述べている。ホーロー語で「台湾人」と語ることで、多数者であるホーロー人集団に「ホーロー人/ホーロー語」＝「台湾人/台湾語」という連帯するイメージを与えようとするのは特に民進党所属の政治家によく使われた手段だと思われる。また、台湾はどんな選挙においても、「愛台湾」（訳：台湾を愛する）と族群問題をめぐる論争が、いつも選挙の時期に候補者が相手を攻撃する手段の一つになる。ホーロー語で発音する「這就是愛台灣啦」⁵（これこそ台湾を愛するのだ）は冗談半分で流行っていた。また民進党籍立法委員黄偉哲氏は、2007年に国民党総統立候補者馬英九氏は「英語は台湾語より上手い」と批判し、馬英九氏の台湾に対する忠誠性を皮肉るという事件があった⁶。施（2002）は2000年に台湾における総統選挙における国民党候補者連戦氏と国民党から党籍を離脱した宋楚瑜氏が台北縣で選挙活動を行った時二人の言語使用について以下のように述べている。

1 「本土化」と言う言葉は英語に翻訳すると「localisation」であり、局在化、局地化の意味を指すが、台湾での「本土化」はさらに台湾主体性や台湾特有文化を強調する意味を含める。

2 一般的に、台湾の本土化時期が二つあるといわれる。ひとつは本省人である李登輝氏が総統になった後国民党改革時期、もう一つは民進党の陳水扁氏が総統選挙に当選したことにより、台湾史上初めて非国民党政権執政時期。ここには後者を指す。

3 ホーローは「河洛」とも「福佬」とも書かれることがあるため、本研究では「ホーロー」と表記する。ただし、各種資料の引用、紹介に際して「台湾語」、「閩南語」という記述がある場合には「ホーロー語」のことを指している。

4 「北京語」、「国語」とも呼ばれるが、本研究では「北京語」と称する。

5 2002年「台湾心声」という政治討論番組の司会者汪笨湖が激しい言論で有名になった。当時彼はよく番組放送でホーロー語で「這才是愛台灣啦」と口癖にする。

6 「脱胎換骨-馬英九的政治長跑與總統路」を参照（王 2008：16-21）。

「言語の使用に関し、連戦はホーロー語を主要言語にして、北京語で補佐する。客家語は最後に『ありがとう』と一言で終わりにする。単に台北縣国民党有権者の族群構成から考えると、連戦氏の戦略は間違っていない。しかし、宋楚瑜氏は全国のテレビ視聴者を相手にすると考えているのため、彼は常に北京語で理念を述べるが、感情的な話ならよく大量のホーロー語を使う。例えば自分のことを『我宋仔（訳：私宋ちゃん）』を呼んだりしている。さらに宋楚瑜氏は時々相当の時間を使って客家語を話している」（施 2002:218）。

このように、候補者は言語の使用をもう一つの選挙戦略として考えることが、台湾の選挙の時期において政治的な手段として見られるが、言語の使用と政治意識の関連性がここからも伺える。

台湾社会において言語と族群の関係は常に緊張関係にあった。17世紀以降漢人は中国大陸から台湾へ移住しに來たが、漢人の中にまた出身地、宗教などによっていくつかの集団に分けられていた。その移民社会においてお互いの言葉が通じないことで喧嘩になった事件は少なくはなかった。また、お互いの使用言語を通して味方と敵方を区別することは、1947年二二八事件が爆発した以後にも本省人と外省人を見分ける方法とされていた。洪（1992）は言語と族群（民族）との関連性について以下のように指摘している：「民族の表徴は文化である。文化というのは抽象的な概念でありながら、その具体的な特徴は言語。したがって、言語の喪失は民族の滅亡と一緒である」（洪 1992:29）。族群の差異を見分ける時、最もよい手段は言語であるため、言語も常に一つの族群が自分の独特性を最も表現できる要素だと思われる。台湾において言語使用に関する議題はよく族群の問題に拡大し、特に選挙の時期が来る度に「族群⁷問題」はいつも政党が利用したり、相手を攻撃したりする手段になる。そのため「族群」は台湾が民主化への前進時に、非常に重要な要素となる。「族群が一社会において重要な社会的分類要素になる時、人は他の族群が権力を持つ時に、自らの族群の利益が保証されるとは思えない。そのため選挙に自分と同じ族群の候補者、あるいは自分の族群と同じ意識を持っている候補者に投票する傾向がある」（殷海光基金會 1998:158）。

台湾における族群の存在に関して、最も早くから台湾に在住しているマレー・ポリネシア系、いわゆる原住民諸族と17世紀頃中国から移住してきたホーロー人、客家人、そして1949年国民党政府と來台した中国各省漢民族（通称外省人）、四つのエスニックグルー

⁷ 「族群」という言葉は「エスニックグループ」の意味を指し、台湾ではよく「族群」と言う言葉が使われるため、本研究でも「族群」を使用する。

プが、現在の「四大族群」を⁸形成してきた。この四大族群と、その出自言語についての分類を表1にまとめた⁹。

表1 台湾の四大族群と出自言語

族群名	概要	人口比率	出自言語
ホーロー人	17世紀頃中国大陸福建省南部から移住した漢民族	73.3%	ホーロー語
外省人	戦後国民党政権とともに移住した中国各地の漢民族	13.0%	国語（北京語）やほかの華語 ¹⁰
客家人	ホーロー人より遅く、中国広東省周辺から移住した漢民族	12.0%	客家語
原住民諸族	マレー・ポリネシア系の先住民族	1.7%	アミ語、タイヤル語など

中国福建省の南部で話されているホーロー語は、17世紀に漢民族が台湾に移住したことで台湾で話されるようになった。洪（1992）は以下のように指摘している。「ホーロー語はいくつかの変種に分けられるが、漳州腔（漳州訛り）と泉州腔（泉州訛り）が台湾で最も有力である。しかしながら、今のホーロー語ではお互いの特徴が入り混じっていることで、すでに元々の訛りとは違う」（洪 1992：15）。

外省人という言い方はそもそも中国で当地出身ではない旅人が地元で「外省人」と呼ばれるという。ごく普通の言い方であったと陳（2000）が指摘している。国民党来台時期に大陸各省からの移住者が一つの集団となり、「本省人¹¹」と対照するため「外省人」と呼び方が普及された¹²。大陸の様々な言語の中に代表言語として挙げた北京語を国語の基礎としながらも、「台湾諸語との接触を経て、独自の特徴が形成されている。」（簡 2002：19）。

台湾における客家語は変種も多く、現在も話されているものとして、主に五つの変種に

⁸ 「1990年代以降、『四大族群』というカテゴリーが、徐々に一般的なコンセンサスを得、現在のエスニック的なカテゴリーを示す用語として定着してきた」。（丸川 2000：25-26）

⁹ 黄（1995）、簡（2002）、松尾（2006）を基に筆者が作成した。

¹⁰ この「華語」は中国大陸各省の言葉のことを指す。

¹¹ 「本省人」という概念はもともとホーロー人と客家人が含まれているが、台湾社会において「本省人」と言及すると単にホーロー人のことを指す場合も多い。

¹² 1992年に戸籍法修正法により身分証明書に省籍所属の登記規則が廃止された以前、身分証明書には自分の省籍が登記されたため、本省人であるか、外省人であるか身分証明書でははっきり載せていた。

分類されていると藤田（2008）は指摘している。最も話者が多いのが四縣変種で、次には海陸変種、大埔変種などである。

台湾原住民は日本統治時代の9族から、2008年8月までの14族が中華民国政府により認められた。しかしながら、「原住民の出自言語はいずれもオーストロネシア語族に属するが相互理解は成り立たない」（簡2002:5）ということが簡（2002）に指摘されている。

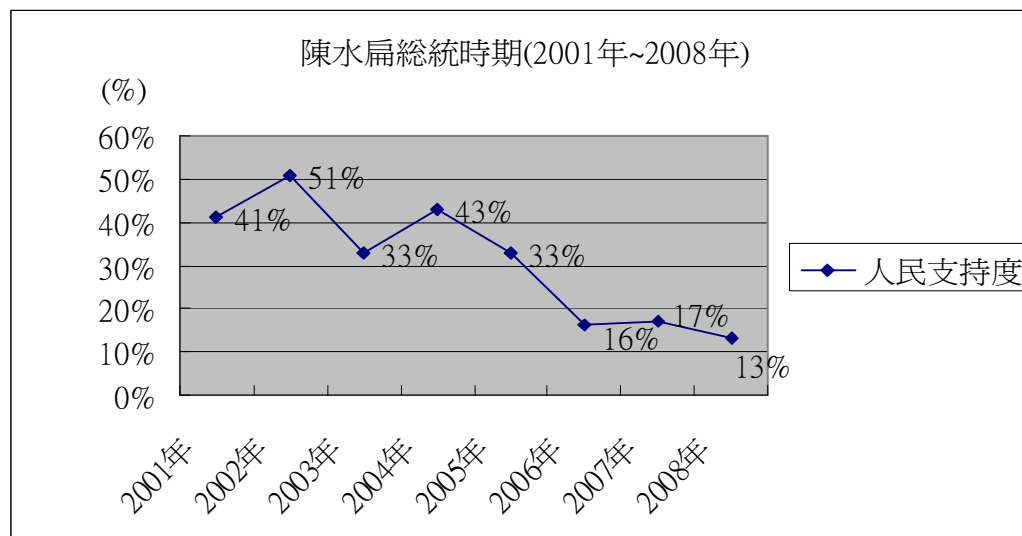
このような族群の背景の下で、現在の台湾社会が構築されてきた。近年の台湾において選挙の時期に入ると、どの政党に所属するとは関わらず、自分の氣勢を上げたり、人気を集中したりしようとする一つ的手段とし選挙活動を利用する。また、多元族群の背景を持つ台湾では、各地域で各々の族群が構成されている。その地域の住民の支持を求め、あるいは元々他の政党を支持している人にも自分を認めてもらいたいため、候補者は地域により演説の策略を調整しつつ演説を行っていると考えられる。

1986年に正式に成立して以来、民進党は権力者であった国民党政府に挑戦し続け、「台湾人の主体性」を主張することで一般人に支持を求めようとしてきた。2000年以降与党になった民進党は言語政策に対して多元文化を尊重する方針を採用し、2001年9月から学校の義務教育においてホーロー語や客家語、原住民諸語などの教育が、「郷土語言教育（郷土言語教育）」として民進党政府時期に始まった。しかし、それでも台湾社会における言語の格差は消えたとは言えず、藤井（宮西）（2003）は「台湾社会内部における閩南系・閩南語偏重は明らかであり、方言の地位向上とは言っても、現実には専ら閩南語の地位向上でしかなかったのである」（藤井（宮西）2003:164）と指摘している。民主運動を提唱していた民進党にとって、多数者であるホーロー人の支持は、確かに民進党が最も求めようとしていた相手であった。このような背景で、河村は「民進党の活動における福佬語の使用には本土化、反旧体制への象徴的な意味も込められた著しいものがある」（河村1998:36）と指摘している。人々の支持を求めため民進党の各活動にホーロー語の使用が頻繁であり、与党になってもそうであろうと思われる。

しかしこのように台湾における多数のホーロー人の支持で国民党に勝ち、政権を取った民進党政府でも、政権に対する人民のイメージが悪くなった場合に、選挙の場面での言語使用はどのように変わっていくのであろうか。台湾のTVBSテレビ放送局は、民進党政府の2001年～2008年に施政成果について、台湾の人々の支持度のアンケート調査を行った。そのアンケート調査結果に、民進党政府の人民支持度は2002年に最も高いの51%に達したが、それ以来50%以上の支持率は一度もなかった。2004年以後、民進党政府において政務官、さらに陳水扁総統の家族までの不正事件、スキャンダルなどが次々に発覚したこと

から、人民は民進党政府への不信感が深まれ、支持度も一気に20%以下に下がっていった。

表2 民進党政府施政成績に対する人民支持度



(TVBS テレビ放送局が実施したアンケート調査の結果により筆者が作成した)

2008年1月に台湾の立法委員選挙の結果において、113議席中、国民党の立法委員は81名が当選したのに対し、民進党所属の立法委員は27名だけ当選した結果も、民進党に打撃に与えたと言えるであろう¹³。選挙を勝ち、再び人民の信頼を取り戻すため民進党の候補者は、選挙におけるどんな戦略があるのか、本研究は社会言語学の視点から、民進党所属総統候補者である謝長廷氏と蘇貞昌氏は選挙晩会において、有権者の支持を得るためにどんな言語使用、またどんな話題を採用するのかを調査し、二人の候補者の背景と演説する地域の構成から、その演説における言語使用の要因を考察する。八年間の執政時間で与党である民進党から選出された候補者は、人々と直接接触する場面、いわゆる選挙晩会で行う演説における使用言語の実態を捉えていく。

本研究は2008年の総統選挙における民進党総統候補者謝長廷氏と蘇貞昌氏が台湾の台北市、新竹縣、台中市と台南縣四つの調査地域で行った演説内容を分析し、二名の候補者が異なる地域でどんな言語使用をしているのか、また、話題による言語の使い分けを考察することで、謝長廷氏と蘇貞昌氏の言語使用の実態、また言語使用に影響するその要因を明らかにする。

¹³ 2008年の立法委員選挙結果は以下の通り：国民党：81名 民進党：27名 無黨團結聯盟：3名 親民党：1名 無党籍：1名(中央選挙委員会選挙資料庫網站 <http://210.69.23.140/cec/cechead.asp>に参照)(2009年5月30日検索)。

1.2. 先行研究と本研究の目的と意義

1.2.1. 先行研究

1.2.1.1. 台湾における言語選択、言語意識に関する研究

① 黄宣範 (1995)

黄 (1995) は 1988 年に台湾地域 581 人に実施した、言語態度と族群意識に関するアンケート調査を基にした研究を紹介している。アンケート調査協力者の中に本省籍である協力者は 428 人で、全体の 73.6% を占めている。外省籍協力者は 91 人で 15.6% を占め、客家籍協力者は 62 人で 10.7% を占めている。調査のポイントは協力者が言語に対する態度と族群意識を明らかにすることとしており、調査結果では、「国語は標準かどうか、およびその社会価値」に対する態度に関し、性別が唯一有意な要因であり、女性が男性より標準語あるいは公用語に肯定的な態度を持つと述べている。また言語使用と族群意識に関する調査結果では、女性は男性より北京語の使用が多く見られ、若年層に北京語の使用が頻繁に使用されるとしている。ホーロー人はおよそ半分の人がほとんどホーロー語で会話するのに対し、客家人は国語で会話するのが 67.48% であり、客家語で会話する機会は国語より低いという結果であった。

この研究は調査協力者の省籍割合が実際の分布に相当近く、それまで台湾における言語意識と言語態度の研究がほとんどされていない状況で、族群意識と言語態度の実態を明らかにした研究である。黄 (1995) は族群意識と言語に対する態度の実態を明らかに分析したが、その族群が言語に対する態度に影響を与える要因に関し、黄 (1995) はまだその要因が形成した社会的背景について触れることは少なかった。本研究は研究対象が異なる地域における言語使用の実態を明らかにする以外に、研究対象である候補者は選挙晚会などの場合での言語使用に影響する要因、また要因が形成するその背景を明らかにする。

② 簡月真 (2002)

1998 年台湾北部の桃園縣で 240 名を対象にした、言語選択に関する面接式のアンケート調査に基づく研究である。調査協力者はアタヤル族、閩南人、客家人、外省人各 60 人ずつで、また各グループは老年層 (60 歳以上)、中年層 (59 歳～30 歳) と若年層 (29 歳以下) の三つの年齢層に分けて行っている。言語使用領域として「家庭」「隣家」「暗算・祈り」「公的な場」を設定し調査を行った。客家人の調査結果では若年層の言語使用に北

京語の浸透が進んでおり、閩南人グループにも北京語が浸透しているが、ドメイン¹⁴に応じて北京語と閩南語を使い分けている。外省人の場合は若年層において北京語の使用が圧倒的に多い。そしてエスニックグループの固有言語は維持されていると分析している。このような結果の中で筆者が注目している点は「二言語併用」である。閩南人は閩南語も北京語もレパートリーとして身に付け、二言語併用への再編成が行われている。また、閩南語の使用は他の言語集団にも伝播していると考えられている。

簡(2002)の研究は、族群により言語使用の分析を行い、ドメインにより言語集団の言語併用や多言語の使用状況を明らかにしたことが本研究の評価できる点であろう。簡(2002)の調査は台湾社会における族群の間に年齢層、また言語使用領域の違いにより出てくる言語使用をはっきり分析でき、本研究の調査を行う時に台湾族群間の言語混用状況を把握することに役に立つが、言語使用と台湾の政治関係との間の関連性が明確にされていないことが指摘できる。

③ 林欣儀 (2000)

林(2000)は台湾の政治討論番組を録画し、パネリストのパネルディスカッションにおける言語使用と言語切り替えを分析、考察している。本稿から林の研究で注目する点としては民進党支持者と国民党と新党支持者による発話の中で言語の切り替えを頻繁にしていることである。しかしながら調査対象であるパネリストの言語意識に関する前提ははっきりしてないことと、毎回の政治討論番組に出るパネリストが固定されていないため、パネリストの個人的な要因がはっきりしないことがこの研究の限界点である。

本研究における研究対象はどの地域においても、同じ民進党所属の候補者謝長廷氏と蘇貞昌氏に制限し、研究対象が一致したことで林(2000)の研究より政治家は政治活動に関わる言語の切り替えその実態を明らかにできる。林(2000)は政治討論番組におけるパネリストのパネルディスカッションに対して行った研究で、パネリストの談話における言語の切り替えと政治意識との関連性を分析したが、談話内容に出た話題に関する分析を行っていないためパネリストの言語使用と話題タイプとの実態が見えない。本研究は候補者が四つの地域における言語使用の実態を明らかにし、また話題における言語その使用状況についても分析し、考察していく。

¹⁴ ドメインはFishman(1964)において提唱された「参与者」、「場所」、「話題」の三つの要素から成り立つ概念である。簡(2002)の研究では「家庭」、「隣家」、「暗算・祈り」と「公的な場」に分類されている。

④ 松尾慎 (2006)

2004年10月から2005年2月にかけて台湾の異なる地域出身で台湾台中市にある東海大学日本語学科240名の学生に対し、言語選択と言語意識およびその要因についてインタビュー方式で行った調査に基づく研究である。言語選択に関し「家庭」、「友人」を言語使用領域として会話能力、出身地、自己意識、政治意識などの要因を調査している。その結果として家庭内言語選択に関しては話し相手の世代により選択される言語が違い、多くの調査協力者が出自言語としているホーロー語から国語への言語シフトが進行中であることが分かった。また、言語選択・言語意識と各要因の関係について、出身地別では台南縣出身者が最も郷土言語の選択割合が高いことと、台北市出身者が最も郷土言語の選択割合が低いことが分かった。そして総統選挙の地域得票率と生活領域別言語意識との間で行った分析では、陳水扁支持者の割合が高い地域はホーロー語に対する肯定的な意識が高く、陳水扁支持者の割合が低い地域は客家語に対する肯定的な意識が高いことが分かった。また政治意識と国語に対する言語意識の間には有意な相関が見られないことが本研究で明らかになった。調査協力者へのインタビューを詳しく実施しており、年齢と出身地など要因をしっかりと分類し、言語使用とその要因の関連性を明確にしていることが本研究の特徴である。松尾(2006)は総統選挙の得票率と一地域の郷土言語との関連性を検討した。本研究はさらに政治家が異なる地域における演説の使用言語を明らかにし、その地域による各言語の使用する要因を考察する。

1.2.1.2. 台湾における政党意識、族群関係に関する研究

① 楊嘉容 (2000)

楊(2000)は1992年～1998年に実施したアンケート調査の結果に基づいて台湾人民の統/独(統一/独立)意識と思考モデルの変化に関する研究を行った。楊は人々の統独思考モードを(1)理性思考類、(2)台湾認同的情感思考類と(3)中国認同的情感思考類に分け、1992年～1998年の間に、中国認同的情感思考類の割合が下がっている一方、台湾認同情感思考類と理性思考類である人々の割合が上昇していたが、1998年以後の調査で統独議題について理性思考類になる人民が大幅に増加したと指摘している。また、台湾認同的情感思考類と中国認同的情感思考類と最も異なるの要因は教育程度と省籍の背景であり、政党好感と投票行為における調査では、中国認同的情感思考類である人は国民党と新党への偏向度が高いことに対し、台湾認同的情感思考類である人は民進党に偏向度が高く、

選挙においては民進党をより支持することが分かった。人民投票行為に影響する要因における考察には政党支持度以外、人民の「統独思考」も明らかに投票行為に影響している要因だと述べている。楊(2000)は1992年から1998年まで6年間に実施された調査データに基づいて行った研究のため、1998年以降の現在、およそ10年間の時間に台湾には初めての政権交代が行われ、台湾社会における政治の変化と共に、台湾の人々も統一/独立についての考えもある程度の変化が起ったであろう。

② 陳啓民 (2000)

陳(2000)は依待理論(clientalism)とNeo-Marixism主義など西方理論と台湾国内の研究調査、文献に基づいて国民党政権時期に外省族群における執政者であった国民党の管理と統治を研究し、台湾歴史の変遷および政府の政策から、外省人が以前から長期的に国民党への忠誠さを形成したその要因について研究を行った。国家政府とともに台湾に移住した外省族群に対する政策から見ると、国力で正式に外省族群の管理部門を設置した上に当時軍人の数が多い外省人またその家族の居住地域を建設している。例えば「眷村」を建てることで外省族群を外の世界に隔離し、外省村特有のシステムを形成するなどの手配することで外省族群への管理とコントロールの機能を達成したとしている。また、学校教育、メディア、文化産業を通して国民党は外省族群のイデオロギーを教化し、その「中国化」の意識を本省族群より高めた。また、投票行為に関して、新党(新国民党)が成立以前外省族群は国民党に対する支持度が非常に高かったが、国民党党内における本土化改革が行われ、その改革に不満を抱いている国民党から離党した人々が自分たちこそが正統な国民党であると主張する新党を成立したことにより、一部の外省族群の支持が吸収されたと本研究では述べている。本研究は過去に外省族群が国民党への支持その要因を解釈し、また国の政策と職業別による族群の投票行為には相違があることを明らかにした。これらがこの研究の評価できる点であろう。

上に述べた先行研究は言語意識と言語使用の実態、また族群意識と政治の発展との相互的な関連性から、現在多元文化である台湾社会を構築する要因を考察する研究であり、いずれも非常に貴重な研究である。台湾社会において政治の発展、各族群の社会地位の成長など要素は、台湾人の言語生活に影響を与えることは否定できない。しかし現在台湾における政治と言語に関わる様々な研究の中に、政治家の言語使用に関する研究が未だに足りない。従って、筆者は選挙晩会で収集した資料を通して、台湾の政治家は人民と向き合う際に支持を得るためどんな言語使用が現われるのかとその実態を明らかにし、民進党の候

補者は今でもホーロー語で有権者の支持を求めるかを究明したい。

1. 2. 2. 本研究の目的と意義

本研究ではこれまでに見てきた先行研究の成果と限界点を踏まえた上で調査を行い、調査結果を分析、考察を進めていく。具体的な目的は以下を明らかにすることである。

1. 候補者の選挙活動における言語使用の実態を明らかにすること。
2. 候補者の選挙活動における言語使用の実態（候補者別、演説場所別、話題別）を明らかにすること。

洪（1992）は言語が相互に競争する時、優位な言語と劣位な言語との間の落差が明らかになると指摘し、さらに言語の優位を文化優位、人口優位、経済優位と政治優位四つの分類を行っている。前の三種類は政治と直接な関連性がないが、後者は政治と直接に関わりと述べている。過去に台湾では人口的、文化的に優位であるホーロー語が存在するにも関わらず、北京語が順調に普及できたのはまさに国民党政府に政治的な優位に立ったからである。これは政治が言語に与える影響の典型的な例の一つだと言えるであろう。しかし台湾において「民主化時代」といわれ、急速に発展した民主化と同時に、言語も「民主化」へと発展していくようになった。1987年に省議会議員が議会にホーロー語や客家語など非北京語である言語での発言を求める事件や、2007年に民進党立法委員が「ホーロー語より英語が上手」と相手を批判するといったことから、一方的に政治は言語に影響するのではなく、言語自身さえも政治に影響することがうかがえられる。黄（1995）はこの点に関して、「異なる族群（語族）あるいは宗教の原始的なコンプレックスは、いつも政治衝突の要因になる」（黄 1995：50）と指摘している。民主党野党時代に「台湾人の政党」と主張する民進党は、どの場合でもホーロー語が主要言語として使われ、台湾人の認可を得ることに成功した。2008年の総統選挙において民進党の候補者は、ホーロー語を使うことで人々との距離を縮めようとしているのだろうか。また「台湾人なら台湾語を話すべき」と言う考えは、今回の総統選挙において民進党の候補者の演説に現われているのだろうか。本研究は候補者が演説に使用する言語とその話題の選択を分析し、政治家は演説会場などで民衆と直接向かい合う際にどんな言語選択が行われるか、また当候補者の言語選択と関連している要因を明らかにする。

1.3. 本論文のアウトライン

本論文では以下の通り進めていくことにする。第二章では、台湾の歴史および国民党政
府統治開始以降の言語政策と、調査対象者が所属する民進党の成立、発展についての流れ
と選挙文化について概観する。次に第三章で調査地域である台北市、新竹縣、台中市と台
南縣の概要と調査方法を表す。第四章では調査対象である民進党籍総統候補者謝長廷氏と
副総統候補者蘇貞昌氏が四つの調査地域で行った演説の内容を分析する。第五章では調査
の結果に基づいて候補者の調査地域における言語使用と関係のある要因を考察する。第六
章では本研究の調査結果と候補者の言語使用と関係のある要因をまとめ、今回の研究にお
ける限界点と今後の課題を検討しに行く。

第二章 台湾の歴史的・言語政策的背景

本章では台湾における歴史的および言語的背景を概観し、言語政策により台湾における言語使用の変化、また言語衝突の事件についてまとめていく。また、本論文の調査対象である民進党について、その発展の歴史を説明する。

2.1. 歴史的背景

本節では台湾の歴史的背景を概観する。また、本節で取り扱う時代区分は、清朝統治時代(1683年～1895年)、日本統治時代(1895年～1945年)、そして戦後国民党来台以降(1945年～現在)の三つとした。

2.1.1 清朝統治時代

一般的には鄭氏政権¹⁵が滅亡した1683年から、日清戦争の敗戦により台湾が清朝から日本に割譲されるまでの時期が清朝統治時代と言われる。当時の台湾は大きく分けて原住民族¹⁶、ホーロー人、客家人の三つの族群で構成されていた。鄭氏政権時代に大陸沿岸から漢民族が台湾に移住することによって、台湾における漢民族の人口は増え続けた。1684年に台湾は一府(台湾)三県(現在の台南、高雄、嘉義)を設置した上で福建省の一部に編入されたが、清朝は台湾を「化外の地¹⁷」として放置し続けていた。また当時大陸から台湾に移動する場合に家族渡航禁止令があったため、多くの移民者は男性であった。そのため、台湾では漢人の女性は稀少であり、漢人の男性が原住民の女性と通婚するケースが増加した。この状況により「有唐山公無唐山媽」(筆者訳:大陸から来た祖父はいる、大陸から来た祖母はいない)という諺が生じた。19世紀中頃から清朝は、ヨーロッパの列強や日本の台湾への進出に対する国防的な観点から台湾の重要性を認識し、1885年に台湾を福建省から分離し、台湾省を設置した。しかし1895年清朝が日清戦争に敗北し、下関条約により台湾が日本に割譲され、清朝212年の統治は終焉した。

2.1.2 日本統治時代

下関条約により台湾が割譲され、日本統治下に置かれる1895年から1945年に日本が敗

¹⁵ 1662年～1683年まで、清朝への抵抗拠点を確保する為に、鄭成功が台湾を制圧する事で成立した。台湾における最初の漢人政権である。

¹⁶ 「蕃人」、「先住民族」、「高砂族」とも称された。特に「蕃人」の言い方で原住民族の野蛮を示すのは非常に無礼な言い方であった。現在台湾では「原住民族」という呼称が一般的である。本論文でも「原住民族」と記述する。

¹⁷ 国家の統治の及ばない地域の意味である。

戦するまでおよそ 50 年時間は日本統治時代と言われる¹⁸。初代台湾総督樺山資紀が就任した後、当時学務部長であった伊沢修二が「台湾の教育はまず新しい領土の人民に速やかに日本語を習得させるべき」という意見を提出した（黄 1995：89）。翌年には「国語」¹⁹教育の実施を開始し、「国語学校」と国語教育機関である「国語伝習所」を設置した。日本が「国語」教育に早くから取り組んだのは、『国語』を通して台湾の人々を日本に同化、皇民化することを最終目的としていたからである」（藤井（宮西）2003:146）。

「国語伝習所」は全島の 14ヶ所に設置されたが、1898 年に国語伝習所は 6 年制の公学校に変更となった。黄（1995）は、1903 年に漢文を教える「書房」の数は公学校の 10 倍もあり、書房の生徒数は 25710 人と公学校の 21406 人より約 4 千人多かったと指摘している。原因としては、「台湾社会に未だ漢文が広く使用されているため、日本語を学んでも実際の利点がないということとともに、日本人にはまだ信用できなかった。ということで上層階級の多くは子供を伝統的書房に行かせ、『番仔学校』と呼ばれる公学校に通っている学生の多くが下層階級の子供であった。」（黄 前掲:90）と黄（1995）は指摘している。

統治後期に入り、日中戦争が激化するとともに、台湾島内での皇民化運動が進行、国語教育が一層強力に推し進められることになった。また国語を普及させるため漢文と漢語の使用が禁止されたり、「国語常用家庭」認定制度が採用されたりした。このように強力な推進の結果として、1942 年に台湾人が日本語を理解できる割合は 60%になったのである。しかしながら『国語』（日本語）が普及する一方で、台湾の人々の母語である閩南語や広東語は失われていった」（藤井（宮西）2003:147）と藤井（宮西）（2003）は指摘している。

2.1.3 戦後国民党来台以降

1945 年に日本戦敗後、国民党政府は中国南京で日本投降書を受け、同年 10 月 25 日に台湾を接収することになり、この日を「台湾光復日」と記念日にした。その後国民政府が台北元総督府であった場所を台湾省行政長官公署を設置し、陳儀に行政長官を任命した。しかし 1947 年に「二二八事件」という抗争が台北市で発生し、その後台湾全土に広がった。この事件も台湾の族群問題の始めとなり、60 年を経た現在でも台湾の族群と政治の発展に影響している。薛（1999）は二二八事件が発生した原因を四つに分けた：

(1) **経済面**: 当時中国大陸での不良な財政経済の体制が台湾の経済に衝撃を与えるため、

¹⁸ 政治的立場や、歴史認識に対する観点の相違などによって、日本統治時代をそれぞれ日本時代、日治時代、日據時代、日本統治時期あるいは日本殖民時期と呼称しているが、ここは日本統治時代と称する。

¹⁹ この節で述べている「国語」は日本語のことを指す。

国民党政府は台湾の経済体制を中国大陸から切り離した。さらに中央政府が発行する貨幣が台湾で流通することを禁止し、台湾では台湾銀行が発行する貨幣しか使えないと制限したが、それでも中国大陸の経済崩壊による台湾への衝撃を止められず、陳儀が台湾行政長官に就任した期間に、公営企業の不況と物価上昇が続いていた。しかも個人の資本産業までも政府により抑えられた。

(2) **政治面**：当時台湾における行政体制は中国出身者を起用することが多く、台湾籍出身者の政治参与を軽視することが普通であった。重要な行政部門においては特にそうであり、言語的背景と教育的背景を重視した上に、本省人は政府で就職することが非常に困難であった。政府の部門に入って仕事ができても待遇は大陸出身（外省人）の公務員とだいぶ違った。同じ仕事なのに待遇が違うことも、本省籍エリートの不満が高まる原因であった。

(3) **文化的差異**：50年間の日本統治時代を経験した台湾における人民の生活や文化の中に多少は日本色に染められた部分があるといわれる。だが、中国大陸から台湾へ移動した中国人は日中戦争を経験したことがあるため、日本を敵視する気持ちを持った人が少なくなかった。そのため来台以後行政を担当する官僚は日本の影が見える台湾の言語や文化を敵視する態度があり、その状況を強硬に変えようとしていた。例えば台湾の日本語新聞や雑誌の発行を禁止することもそうであった。しかし以前日本の教育しか受けていなかった多くの台湾人にとっては、北京語もまだ読むことができず、日本語を通して情報をもらえない状況が続くことにより、文化の断層が現れた。

(4) **他の問題**：中国から台湾に移動した軍隊の品行が悪く、台湾に連続して社会問題が起き、さらに政府の不正事件が続いていたことにより、台湾人の祖国への期待は失望に変わった。さらに行政長官公署は一足でも早く台湾の日本化を排除し、中国化への政策を推進しようとしたことで、人民の不満を招くようになった。

陳（2000）は二二八事件が起きたことで、本省人の外省人に対する敵意と不信感が一段と深まった一方、外省人にも自分たちの族群意識が形成されたと述べている。この後およそ50年間台湾社会のタブーとなった二二八事件に対し、1995年に当時の総統李登輝は国家元首として公然と二二八事件の被害者に謝罪し、その年に立法院は事件被害者についての補償法案を通過させた。

1947年に台湾省行政公署が廃止され、台湾省政府に変更となった。国共内戦のため国

民政府は1948年5月に「動員戡亂時期臨時條款」を実施することになった。1949年から台湾で38年間続いた戒嚴令を実施することにより、権力体制の立ち上げが強化された。その後1949年12月に国民党政府が台湾へ移転することになった。戒嚴令が実施された期間も「白色恐怖」と称され、二二八事件以後の鎮圧、また戒嚴令時期に国民党政府が人民の言論、団体結成などの自由を強力的に制限したことにより、台湾人民は政治に無関心になった。黄（2006）は「二二八事件により痛ましい経験およびその後の戒嚴令統治のため…（中略）、台湾近代史と台湾現代史が繋がらない。繋がらない時代に台湾人はほとんど無口の世代になった。」と指摘されている²⁰。

1971年に台湾は国際連合を脱退し、1975年に蒋介石総統が亡くなり息子の蔣経国が跡を継いだ。1979年にアメリカは中華人民共和国と国交樹立したことで台湾と断交した。1970年代に台湾は一連の問題と直面したことにより台湾社会に再び政治改革を主張する声が見られ、最も知られているのは1979年12月に起きた「美麗島事件²¹」である。当時の関係者や弁護士はその後民主運動において活躍した。それからは「民主化運動」の時代に入り、1986年に民進党が成立した翌年に、戒嚴令が解除された。1996年に台湾史上初めての総統直接選挙が実施され、さらに2000年の総統選挙に「台湾意識」を掲げる民進党総統候補者陳水扁が当選したことにより、50年以上続いた国民党統治が終わった。

2.1.4 民進党の発展と台湾選挙活動

2.1.4.1 民進党の発展

「1970年代工業化とともに中間階級が飛躍し、また国際外交に挫折したこと、さらに統治者である政府にとって権力移転の問題に対し、台湾社会では政治改革を唱える勢力が動き出した」（黄 2006:59）。当時民主運動を提唱する知識人は二つのタイプに分かれ、一つは〈大学〉、〈台湾創論〉など雑誌を出版することで政府への批判を行い、もう一つは選挙とデモに参加した。これで党外民主運動の起源を形成したのである。「党外」という名詞の「党」は国民党のことを指し、当時野党結成は禁止されており、反国民党勢力は、国民党に属しない「党外」という名前で活動していた²²。1977年11月の桃園縣長選挙に候補者であった許信良氏の支持者が国民党の開票での不正を指摘して暴動に発展した事件は

²⁰ 「人民の力量—蘭陽平原的雨月尾四十八天」を参照（黄煌雄画策/台湾研究基金會執筆小組 2006:53）

²¹ この事件における被告の弁護を行った一人の弁護士は元総統の陳水扁である、また、被告者であった呂秀蓮も元副総統である。

²² 民進党公式ウェブサイト日本語版 <http://www.dpp.org.tw/>参照。

「中壢事件」と称される。黄（2006）は以下のように指摘している。「中壢事件は台湾選挙史上初めて人民が自ら自発的に集団活動で選挙不正行為に対抗した事件である」（黄 2006:64）。また、1979年12月の国際人権デーに台湾高雄市で行われた雑誌『美麗島』主催のデモが無許可を理由に警官の規制に遭い、主催者らが投獄されるなどの弾圧に遭った「美麗島事件」が起こった。事件に関係があった逮捕者も弁護士もその後台湾政治に大きな影響を及ぼしている。

1986年9月に国民党による封鎖をくぐり抜けて「党外編輯作家聯誼会」と「党外公共政策研究会」の2団体に属する132人は台湾台北市の圓山ホテルで民主進歩党（略称民進党）の成立を正式に決議した。戒厳令が解除された1987年に民進党により開催された全国党員代表大会において「人民には台湾独立を主張する自由がある」との決議文が採択された。

1990年に民進党と国民党は「国是会議²³」において総統、省市長の住民直接選挙をもって行うことを合意し、同年10月に「1007決議」で「台湾事実主権独立決議文」を採択した。

その後1994年の台北市市長選挙で陳水扁氏は当選したとき初めて中華民国の首都である台北市市長に非国民党者が就任することになった。しかし陳水扁は1998年の台北市市長選挙で国民党が推挙した馬英九氏に負け落選した。

落選した陳水扁は2000年の総統選挙に出馬し、国民党の候補者連戦（レン・ザン）と国民党から離れた無所属である宋楚瑜（ソウ・ソユ）の挟み撃ちから当選した。当選したことにより中華民国政府で初めて、政権の平和な交代が行われた。2004年の総統選挙のときには同時に、台湾史上初めての住民投票²⁴が行われ、選挙結果により陳水扁が再び当選した。

民主運動を基礎とし、かつて国語優先の政策に反対し、族群の平等を主張として唱えている民進党は、過去に平等に対応されていないホーロー人、客家人、原住民族の支持を求めた。また民進党が1999年の全国党員代表大会において修正した行動綱領²⁵には言語政策、人権、政治に関する以下のような記述がある。

37. 設置台湾原住民族自治區，以保障其政治、經濟、文化等自主權，原住民族

²³ 当時の総統李登輝氏は民進党を含むあらゆる政党、有識者と民主化について話し合った会議であり、それまで反乱者と目されていた民進党が正式に国民党政権の対話対象になった場でもあった。

²⁴ 2004年の住民投票は「台湾人民堅持台海問題應該和平解決。如果中共不撤除瞄准台灣的飛彈、不放棄對台灣使用武力，您是否贊成政府增加購置反飛彈裝備，以強化台灣自我防衛能力」と「您是否同意政府與中共展開協商，推動建立兩岸和平穩定的互動架構，以謀求兩岸的共識與人民的福祉」二つのテーマであった。

²⁵ <http://www.dpp.org.tw/>

的權益應立法保障。

(台湾原住民族自治区を設置し、政治、経済、文化等の自主権を保障し、原住民族の權益を立法的に保障する)

118. 國民義務教育不限單語教學，應尊重各族群語言，推動母語教育。

(國民義務教育は単一言語によって授業を行うべきではなく、各エスニックグループの言語を尊重すべきである。また、母語教育を推進する)

123. 尊重原住民族之固有文化、語文、宗教，並協助其發展

(原住民族固有の文化、言語、宗教を尊重し、それらの發展を支援する)

党外時期から、執政する政党となるまでの間に、過去に台湾の民主化、主体性を強調していた民進党はそれを堅持しながら、2004年に「族群多元国家一体決議文」を採択し、本土化優先の立場から多元文化を重視する政策に転換しつつ、多元族群共存社会を建てると党の綱領に記述している。

2.1.4.2. 台湾における選挙活動

黄(2006)は80年代に台湾の選挙文化に対し以下のように指摘している。「長い時間の戒厳令体制の下に、人民は普段、集会結社の自由はまったくないが、選挙の時期に入ると、選挙活動における民間の人々は『民主ホリデー』といわれる自由に発言できる時間が提供された。党外の政見発表会が行われるため民衆の共鳴を呼び起し、政治の意識も昇格させた。従って当時の民主運動はほとんど選挙活動とともに進んでいた」(黄2006:62-63)。

台湾の選挙活動にある特有な性質は、候補者あるいは所属している政党が、選挙の時期に大規模の選挙活動を行うことである。台湾ではそのようなイベントを「造勢晚会」あるいは「選挙晚会」と称し、夜に行うことが多いため「晚会」(夜のイベント)と呼ばれる。このイベントは大量の人を集めることを通して強大な「勝てる」という氣勢を作り上げ、候補者と支持者の自信を高める一方、相手の氣勢にも打撃を与える。「晚会」に行う演説を通し自分の政策や理念をアピールしたり、相手を批判したりすることはよく選挙晚会に使われる手段である。しかし、過去に候補者を演説させる機能しかなかった選挙晚会で、現在では候補者の演説だけでなく、歌手や舞踊のショーもスケジュールに入り、会場の周辺には飲食物を売る屋台も見られる。このように、選挙晚会はカーニバルのような雰囲気的活動になり、「選挙晚会」は昔のような厳粛な活動ではなくなり、支持者も家族を連れ

て行くことが可能になる。これで晩会が一層盛り上がるのは、以前党外時期に行った選挙晩会とは異なる特徴だといえるであろう。

台湾における民主化の発展と選挙活動とは非常に緊密な関係にあり、人民は選挙する時しか近い距離で政治家を観察できないと思われる。そこで候補者が演壇の下にいる「有権者²⁶」との心の距離を近くするために、当地の族群が最も使用している言語を演説に使うというのは、現在の台湾が民主化した後の選挙現象である。1989年に台湾において実施された複数政党による初めての自由選挙で、かつて北京語優先政策を提唱していた国民党候補者もホロー語を混ぜて演説を行った。もちろんそれは台湾では70%を占めているホロー人の支持を得るためである。松尾（2006）は以下のように指摘している。「これまでは、国語以外の言語を容認してこなかった国民党でさえも、『方言』を無視できない時代に突入した」（松尾 2006:24）。2004年12月8日のBBC北京語版新聞記事には台湾の選挙文化について以下のように記述されている。「台湾で選挙の戦争に勝ちたいならば、多言語を運用しなければならない。国語（いわゆる普通話）、台湾語、客家語が使われ、そうしないと有権者は認めてくれないのである²⁷」。従って、台湾社会は既に多元文化時代に入り、選挙に当選するため、どこで何の言語を使用するのが適切であるか、ということとは候補者が選挙方略を考える時に無視してはいけない問題になるであろう。

2.2. 言語政策的背景

本節では台湾における戦後国民党が実施した言語政策を概観する。藤井（宮西）（2007）は戦後台湾における言語政策の変化を以下のように区分している。

1. 「国語」の中国化（1945～1949）
2. 「国語」の絶対化（1950～1986）
3. 「国語」の相対化（1987～2000.4）
4. 「国語」の名目化（2000.5～現在）

本稿は藤井（宮西）（2007）の考案した四つの段階に従い、台湾での言語状況を明らかにする。

²⁶ この「有権者」は北京語の「選民（constituency）」に翻訳した。

²⁷ 原文は「在台湾打選戰，得運用“多聲帶”，國語（即普通話）、台語、客家話紛出籠，才能多爭取些選民認同」
BBC 記事中国語版 http://news.bbc.co.uk/chinese/trad/hi/newsid_4070000/newsid_4079100/4079163.stm（2009年3月15日検索）

2.2.1. 「国語」の中国化（1945～1949）

戦後日本の統治から解放された台湾では、中国への祖国復帰を喜び、「国語」（北京語）を熱心に勉強し始めたのである。中華民国政府も教育の祖国化を目指し、その第一は「国語」（北京語）を普及することであった。国語（北京語）を普及するため「台湾省国語推行委員会」を設立し、台湾の各地における国語（北京語）推行所が設置された。同時に、『台湾省国語運動綱領』が公布され、その第一条には：「台湾語の回復を実現し、方言²⁸との比較によって国語（北京語）を学習する」と述べてある。しかし、「この条文に関しては、無条件的に台湾語を自由に使わせるのではなく、日本語がこれ以上膨らむことを抑えるためのものであった」（黄 1995:103）。

北京語を習得させるという最終目的を達するため、方言を回復させる一方、日本統治の影響を排除するため台湾の人々の「共通語」であった日本語への抑圧も行われた。新聞、雑誌などの日本語版が廃止され、日本語による著作も禁止された。何（2007）は「一部の政府役人はナショナリズムの立場から日本語を敵視し、日本語を排除する文化政策を強く主張した」（何 2007:59）と指摘している。当時、日本語しか読めない数多くの台湾人にとって、「台湾の人々に対する言論の抑圧となり、祖国であったはずの中華民国と台湾の人々の間に溝を作ることになってしまう」（藤井（宮西）2003:151）結果となった。1947年に二二八事件が勃発し、その動乱の後、北京語の普及は一層推進され、1949年に中華民国政府が台湾へ移転することにより、大陸からの外省人も大量に流入することとなった。

この時期には、日本統治時代に「国語」であった日本語が排除され、「国語」が北京語に変更され、方言と国語が「方言から国語へ」という概念で共存し、かつて失われていった台湾語を回復するようにとの考えが認められていたのである。

2.2.2. 「国語」の絶対化（1950～1986）

国共内戦の敗戦により、1949年に国民党政府が台湾に移転することになった。共産党政権から大陸を取り戻すための基地である台湾では、「国語」（北京語）の推進が一層強力に進められた。藤井（宮西）（2003）は「国家団結のためには言語統一は欠かせないとする中華民国建国当初から重視していた考え方に基づいて、『国語』普及政策はより一層重要な課題となった」（藤井（宮西）2003:153）と指摘している。

一刻も早く中国大陸を取り戻すため台湾社会を中国化しなければならなかったこの時

²⁸ 「この段階ではホロー語や客家語は国語の『方言』とされていることに留意したい」と松尾（2006）が指摘している（松尾 2006:18）。

期に日本語の使用を禁止することだけではなく、方言の公的使用までもが制限され、1956年に方言の公的な場での発言も禁止され、「説国語運動」（国語を話す運動）が全面的に推進され、各機関、学校また公的な場所では北京語の使用のみに規定された。さらに「語言不統一、影響民族團結」（言語が統一しないことは民族の團結性に影響する）と言うスローガンもその時期に提出された（黄 1995:109）。学校内のホーロー語、客家語、原住民諸語の使用が強く禁じられ、特に小学校での実行は最も強力に行われた。学校で方言を話したら叱られたり、殴られたり、罰金を課されたり、「狗牌」と呼ばれる札を首に掛けられたりした。ある学校にはさらに「糾察隊」を組織し、生徒が方言を話すことを監視したり、生徒がお互いに方言を話した生徒を検挙したりすることを奨励したのである（洪 1992:42）。1966年の大陸で起こった「文化大革命」の影響を受け、翌年1967年に『中華文化復興運動推進委員會』が組織され新たに中華民族意識を国語使用に求めることになった。藤井（宮西）（2003）は「中華文化を保持することができるのは中華民国だけで、その中華民国の国家統一を強化するためには、方言ではなく、象徴である「国語」を重視しなければならないということである」（藤井（宮西）2003:154）状況となったのであると指摘している。

そして1971年国連から脱退した中華民国政府は、愛国心を強めるため、「国語」（北京語）に対する民族意識をより一層強化することになった。1976年に「廣播電視法（ラジオ・テレビ法）」と「廣播電視法施行細則」が公布され、「国語」（北京語）の推進とともにマス・メディアで方言の使用がよりいっそう制限された。「廣播電視法」の第20条の中では「放送局による国内向け放送の放送言語は北京語を主とすべきであり、方言は年々減少させなければならない；その占めるべき比率は、新聞局が実際の需要に鑑みてこれを定める」と規定されている²⁹。1970年代の後半から戒厳令による政治的抑圧、また方言に対する言語的抑圧に対し本省人の中に民主化を唱える動きが始動した。既出の中壠事件³⁰や美麗島事件などがこの民主化の流れで起こった。こうした民主化運動に対し、政府は統一・團結の象徴である「国語」（北京語）の普及を再強化するようになった。「国語推進委員会」を教育部本体で再組織することにより、「国語」（北京語）絶対化へと流れを押し戻そうとしたのであると藤田（2008）は指摘している。

しかし80年代に入り、「党外」と呼ばれる無党派で発展する政治活動が益々活発になっていった。1986年に民進党が創立され、翌年に戒厳令が解除されることにより、政党の

²⁹ 日本語訳は藤井（宮西）（2003）を参考にした。

³⁰ 1977年に桃園縣縣長選挙の際に国民党の不正に不満だった多数の人々が暴動を起こした事件であった。

結成を禁止する「党禁」も開放された。正式に合法的な政党と認められた民進党は、「台湾人意識」と主張を揚げ国民党との対抗を続けていた。

2.2.3. 「国語」の相対化（1987～2000.4）

1987年の戒嚴令解除により、戦後から国民党一極支配が正式に承認された民進党からの挑戦を迎えることになると共に、台湾の民主化実現は大きく進んだ。藤井（宮西）（2003）は「民主化とは、台湾の台湾化、すなわち台湾が元来の姿へと変化していくことを指している。したがって、民主化の進展は、今まで抑圧されていた台湾土着のものを見直し、公認しようとする動きへと発展した」（藤井（宮西）2003:161）と指摘している。この時期に国民党政府の言語政策も徐々に変わっていくのである。方言の公認により二言語教育が主張されるようになり、1990年代から具体的な方針として動き始めた。さらに対外国語に対しても方策が転換され、多言語状況を容認する方向に進んだ。しかし、藤井（宮西）（2003）はこの状況に対し、「台湾では閩南語を母語とする閩南系の人々が全人口の7割以上を占め、台湾社会を代表する存在となっている。従って、台湾が台湾化するにあたって最も強い影響力をもったのは閩南系の人々と閩南語であった」（藤井（宮西）2003:164）と指摘している。

1976年に公布された「廣播電視法（ラジオ・テレビ法）」は1993年に修正され、マス・メディアにおける方言の番組に対する制限が削除され、さらにかつては「国語を主とすべき」と定められていた条文が「我が国の言語を主とすべき」に改められることになった。

学校教育における言語教育についての検討も動き出していた。1991年に中学校の外国語選択科目に変更が加えられ、従来英語しか選べなかったものを日本語、フランス語、ドイツ語を加えて四言語の中から選択できるようにした。特に以前国民党が過去に国語（北京語）普及への妨害であるとしていた日本語が外国語選択科目に入ったことにより、政府の外国語に対する方針が転換されるようになった。

2.2.4. 「国語」の名目化（2000.5～現在）

2000年5月に台湾では初めて民進党出身者が総統に就任し、中華民国政府は1912年大陸で成立して以来初めて政権交代することとなった。これに対し藤井（宮西）（2003）は、「中華民国の歴史を繋いできた『中華民国・台湾』が、『中華民国』とは一定の距離をとり、台湾という地域に根ざす『台湾』社会へ変化を遂げたことを意味するものである」と指摘している（藤井（宮西）2007:73）。かつて国家統一の象徴である「国語」（北京語）

の意味も、社会の中で新たな位置付けがなされるようになった。また学校教育には、2001年9月から義務教育である小中学校教育が九年制一貫教育になると同時に「郷土言語教育」という教育も始められた。ここでの「郷土言語」とはホーロー語、客家語、原住民諸語すべての母語を「郷土言語」という名で総称する。松尾（2006）は「言語政策の転換による郷土言語の推進政策は結果としてホーロー語を強く後押しし、結果としてホーロー語の選択割合が増加しつつあるのではないかと思われる」（松尾 2006:116）と指摘している。

2003年に「言語平等法」草案が国語推行委員会により審議され、同年に「国語推行辦法」を廃止することが決まる。しかし、『教育部公報』340期に載せられた部長談話から見ると、「国語」（北京語）が依然として「最も優先される」地位にある言語であることは明らかである（藤井（宮西）2007:76）。

学校における言語教育に「国語」（北京語）が公用語として認識され、優位が確保されつつも、これが郷土言語教育の推進も多言語教育の方向へ進んでいる。外国語教育については英語への偏重が見られ、「郷土言語教育」と同時に推進されているのは、国際化のためであろうと認識すべきである。

2.3. 台湾における言語、族群と政策の変化

多族群社会国家において政治衝突は、族群と族群がお互いに接触する際に必然な現象であり、言語衝突というのも政治衝突の一部である。戦後台湾においては国民党政府が「国語」を普及する政策を強力に推進した。それとともに、言語と言語との衝突も続いていた。こうして、台湾の言語政策は衝突の中に発展、変化していく。本節は黄（1995）を参考に1980年代以後2000年国民党が総統選挙の敗戦により政権を民進党に移転するまでの、台湾社会における言語政策により起きた衝突と政策の変化を以下にまとめて説明する。

1983年：

- (a). 3月にテレビで放送しているドラマ「成功嶺上」にある俳優が「台湾国語」（台湾訛りの北京語）で発音していることに対し、当時の新聞局が当放送局に標準北京語に改正するよう要求した。

1984年：

- (a). 4月に華視（中華テレビ放送局）が「閩南語歌曲排行榜（閩南語歌謡ランキング）」という番組を放送しようとするのに対し、新聞局はそれが国語推行政策に違反する

と言う意見をもって反対した。

1985年：

- (a). 10月に教育部により「語文法」草案が完成され、その中で第二条は「語文法という『語文』は我が国固有な文字、および政府により推行する国語が我が国公用標準語文のことを指す」と述べる³¹（黄 1995:54）。
- (b). 12月、「語文法」が公布された後、社会からの批判のため、行政院により草案立法は削除された。

1987年（戒嚴令解除）：

- (a). 2月華視（中華テレビ放送局）のある番組で日本俳優への日本語でのインタビュー内容が放送する直前に全部削除された。
- (b). 3月立法委員朱高正氏がホーロー語で発言したことで立法院が大混乱になり、4月の省議会ではある議員がホーロー語での発言を堅持したため、他の議員も客家語、原住民語で発言したことにより、会議が中止された。
- (c). 8月に台湾省教育庁により、全国の小、中学校における方言を話す生徒に体罰、罰金などを課することを禁止し始めた。
- (d). 10月に「客家風雲」という雑誌が創刊され、「客家研究中心」が成立された。
- (e). 11月に台湾のケーブルテレビ局におけるホーロー語のニュース報道が一日20分の放送という制限の下許可され始めた。

1988年：

- (a). 11月に台湾南部の六堆で言語権利を主張する集会「六堆客家之夜」が行われ、12月に「還我客語（我が客家語を返せ）」と題したデモ行進が実施された。

1990年：

- (a). 李登輝の中華民国第8代総統着任時には、社会の多元化を目標として容認すること

³¹ 原文は「語文法所稱の語文是指我國固有的文字和政府所推行的國語為我國工用標準語文」により筆者が翻訳した。

を宣誓したことで、台湾は多元文化社会だという思想が正式に認められた。

(b). 同年の全国向けの大晦日談話で、李登輝総統は初めて北京語、ホーロー語、客家語三つの言語で公開談話を行った。

(c). 6月立法委員戴振耀氏は立法院でホーロー語で当時の行政院院長郝柏村氏（外省籍出身）に「郷土認同」について質問し、当時の行政院院長郝柏村氏は以下のように発言した。「我在台灣住了40年，但我不會講，也聽不懂台語。身為中國人，以講中國話為榮。什麼是台灣話？我只知道閩南語、客家話、山地話，難道金門馬祖的話也是台灣話？（筆者訳：私は台湾に40年間住んでいますが、ホーロー語は話せませんし、わかりません。中国人として私は中国語を話すことに誇りを持ちます。台湾語というのは何？私は閩南語、客家話、山地話しか聞いたことがありません。それとも金門馬祖³²の言葉も台湾語だといえますか？）」（黄 1995:61-62）。

(d). 11月華視テレビ放送局のドラマ「愛」は、台詞の多くをホーロー語で発音し人気ドラマであった。

1991年：

(a). 「台湾原住民自治区議会」が4月に成立され、原住民族自治議会宣言を発表した。8月に初めての原住民母語教科書が出版された。

1992年：

(a). 「戸籍法」は立法院において修正され、身分証明証への戸籍登記をしないことが決定された。

1994年：

(a). 8月1日中華民国憲法増修條文により、原住民族の呼び方を「山胞」から「原住民」に正式に改正した³³。

1995年：

³² 金門と馬祖は台湾の離島である。

³³ 中華民国総統府中華民国憲法簡介 http://www.president.gov.tw/1_roc_intro/law_add_83.html を参照。(2009年5月25日検索)

- (a) . 總統令により戸籍法の姓名条例第一条：「台湾原住民の姓名登記はその属する族の文化、習慣により従う。漢人の名前で姓名登記した者はその族の名前を回復する申請が許可する。族の名前に回復した者は元漢族名に再び回復すると申請することが許可するが、一回しか限らない」³⁴と改正した。

1999年：

- (a) . 教育部により「九年一貫課程修訂審議委員会」で2001年から「中小学校九年一貫課程草案」が起草され、母語教育が小学校一年生から四年生まで週二時間の必修課程として実施すると提案された。

³⁴ 内政部戸政司全球资讯网 <http://www.ris.gov.tw/ch1/ris-2-01.html> を参照。(2009年5月25日検索)

第三章 調査の概要

3.1. 調査対象

今回 2008 年台湾総統選挙に国民党と民進党両党は、各党正・副総統立候補者を選出し選挙を行った。国民党は馬英九（マ・インジョウ）氏と蕭萬長（ショウ・ワンチャン）氏二名の候補者を推薦したことに対し、民進党は謝長廷（シェ・チャンティン）氏と蘇貞昌（スー・チェンチャン）氏を総統・副総統立候補者を選出した。本研究は民進党から選出された謝長廷氏、蘇貞昌氏二名の候補者を調査対象として、謝氏と蘇氏の台湾北、中、南部、および客家地域で行われた選挙活動での演説の内容を分析し考察することである。

当初は国民党総統・副総統候補者馬英九氏と蕭萬長氏も研究対象として考え、国民党と民進党候補者の演説を比較することで両党の差異性を分析しようと設定したが、データ収集する際に候補者がいつこの選挙晩会に出るかという各候補者の情報を把握する必要があるため、国民党の総統選挙に関わっているスタッフに問い合わせを続けたが、様々の事情でスケジュールの協力ができないという答えが返ってきた。国民党の公式ウェブサイトでは、各候補者の選挙晩会の日程は晩会の前日、もしくは当日に載せられたため、データ収集を行うのが困難であった。また、選挙晩会に出るとき、民進党の謝長廷氏と蘇貞昌氏二名の候補者は同じ会場に登場したのに対し、国民党の馬英九氏と蕭萬長氏は同日に同じ晩会に出ることが極めて少ない。このような影響で国民党候補者の演説資料が不完全になり、民進党候補者の演説と比較、分析することが不可能と判断し、今回は民進党の総統候補者謝長廷氏と副総統候補者蘇貞昌氏二人の演説内容を主に分析し考察する。

3.2. 調査地域

本研究は調査地域となった四つの都市の特徴については以下のように、地域概況、人口構成と地域別の政党得票率に分けて説明する。

3.2.1. 調査地域概況

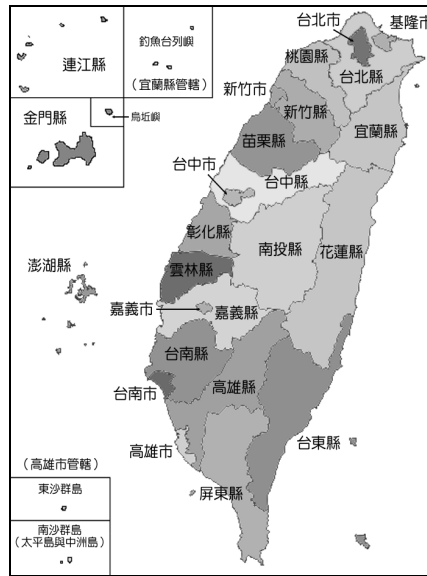


図1 台湾行政区分図³⁵

調査地域概況は表3のように、人口数、都市情報をまとめたものである。

台北市は台湾の首都であり³⁶、人口は260万人で、人口数は全国2位（1位は台北縣）である。「全国およそ半分の外省人が台北地域に集中している」と黄（1995）は指摘している（黄宣範 1995：38）。台北市は首都のため政治、経済、教育の中心である。

新竹縣の人口は49万人で、住民の半分以上が客家人である。1980年に新竹科学工業パークが設立した。新竹科学工業パークの設立によって新竹地域は北台湾の科学研究開発の中心となり、他の都市からの移住者も増え続けている。

台中市は台北市、高雄市に続く台湾第3の都市であり、台湾中部の経済文化の中心地として現在に至っている。台中市は台湾北部と南部を結ぶ交通中枢でもあり、空港と新幹線の発展で人口が急速に成長している。また清朝時代から台中市はすでに発展しており、悠久の歴史のある「文化城」と言われていた。

台南縣の人口は110万人で、9割以上がホーロー人である。17世紀、頑思斉、鄭芝龍らが台南に拠点を築いた記録があり、早くから漢人の入植が進められていた。その後、鄭成功が台湾を拠点に反清復明の運動を開始すると、明の行政区分を援用し台南地区に天興県

³⁵地図は Wikipedia の「台湾縣市」「台灣行政區劃圖」のページにより

[http://zh.wikipedia.org/wiki/File:Political_divisions_of_the_Republic_of_China\(Taiwan\).png](http://zh.wikipedia.org/wiki/File:Political_divisions_of_the_Republic_of_China(Taiwan).png)

³⁶ 1931年「中華民國訓政時期約法」第五条による中華民國の首都は南京に規定したが、1947年以後中華民國憲法が実施する際に首都の位置は明確に載せていない。1949年国民政府が台湾に移り、当時の蒋介石総統は台北市を「戦時首都」に規定した。しかし実際に中華民國の首都は何処であるかまだ明文化していない。

と万年県を設置した。台湾史上はじめての漢人政権が確立されたことで、台南地域の重要性が窺える。現在は台北市、台中市、新竹縣などの都市と違って、農業がその経済の中心である。元総統陳水扁も台南縣出身であつたため、従来民進党への支持が根強い。

表 3 調査地域概況³⁷

台北市	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口：約 260 万人。 ● 台湾の首都。 ● 全国の外省人はおよそ半分（49.5%）が台北地域に集中。 ● 民進党総統候補者謝長廷の出身地。
新竹縣	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口：49 万人。 ● 全人口の 60%以上は客家人。 ● 新竹科学工業パークのため、外の縣市から移住者も増えている。
台中市	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口：106 万人。 ● 台北市、高雄市の次に台湾第 3 位の都市である。 ● 台湾中部の経済発展核心都市。
台南縣	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口：110 万人。 ● 台南縣全体人口の 9 割はホーロー人。 ● 元総統陳水扁の出身地。

³⁷ 調査地域の情報は各縣市の公式サイド参照

3.2.2. 政党得票率

表4 2001年～2008年立法委員選挙国民党、民進党得票率³⁸

		台北市	新竹縣	台中市	台南縣
2001年	国民党	21.0%	31.7%	25.9%	39.6%
	民進党	34.0%	25.6%	32.6%	45.8%
2004年	国民党	33.17%	42.73%	32.27%	30.69%
	民進党	34.67%	36.90%	31.96%	44.58%
2008年	国民党	62.03%	66.52%	50.71%	30.51%
	民進党	36.40%	0%	39.12%	55.48%

表4にまとめたのは2001年から2008年まで行った三回の立法委員選挙の国民党、民進党得票率の結果である。時代別に見ると、2001年の選挙結果では新竹縣の得票率は民進党より国民党が高いのに対し、他三つの地域での得票率は民進党が国民党より高い。続いて2004年の立法委員選挙においては、両党がそれぞれ二つの異なる地域より高いことがわかった。しかし2008年の選挙結果は、2001年とだいぶ変わり、台南縣以外三つの地域での得票率は国民党が民進党より高いことがわかった。

続いて地域別の得票率から見ると、台北市で2001年と2004年の立法委員選挙に民進党の得票率が国民党より高かったが、2004年は両党の得票率差が1%にも達しなかった。そして2008年になると、国民党の得票率が60%以上で民進党を遥かに上回った。台中市の得票率の変化も台北市と同じく、2001年に民進党が国民党に勝ったが、2004年は両党の得票率差が1%にも満たなかった。2008年も民進党より国民党の数字が上回った。客家人が多数住む新竹縣では、三回の立法委員選挙結果とも国民党が民進党より高い。2008年の立法委員選挙に国民党は70%近くの得票率を得たが、民進党から推選した候補者はいなかったことと関連しているであろうと窺える。

しかも2008年の選挙に新竹縣における民進党は候補者を推選しなかったのにも関わらず、国民党は70%近くの得票率を得た。しかし新竹縣とは全く違う結果がでたのは台南縣であった。台南縣の場合は三回の選挙とも民進党が国民党より高い得票率を得たのである。2008年の選挙でも50%民進党が以上の得票率を獲得した。

³⁸ 中選會選挙資料庫網站 <http://210.69.23.140/cec/cechead.asp> により筆者が作成。

立法委員選挙の得票率の変化を通し、調査地域の住民による政党選択の変化が分かった。候補者は選挙の際に、都市の構造、人口構成また政党支持傾向を把握した上で、地域の特性により当地域での選挙方針を調整し、より住民の支持を得るのではないだろうか。本論文はそうした前提に立ち、分析、考察をしていくこととする。

3.3. 調査期間

調査期間は2008年3月1日から3月21日までである。3月22日は総統選挙投票日であったため、投票結果が出るまで当日一切選挙活動が禁止された³⁹。

3.4. 調査方法

調査方法に関して、今回の調査で筆者は、選挙活動(晩会)の現場で候補者の演説の録画を行った。録画した演説の内容を文字化し、さらに文字化したデータを録画した演説と合わせて分析した。また、台湾全国から四つの地域(台北市、新竹縣、台中市、台南縣)を選んで調査をした。

3.5. 分析方法と焦点

分析は二つの項目に分ける。まずは候補者が演説の中で北京語、ホーロー語と客家語をどれくらい使用しているのか時間の長さを計測し、民進党の正副総統候補者の四つの調査地域での各言語の使用割合を求め、謝長廷氏と蘇貞昌氏が選挙晩会に行った演説の使用言語状況を明らかにすることである。具体的には演説で使用された北京語、ホーロー語そして客家語の時間の長さを計測し、各言語の使用割合を求めた。これは字数を計測することではなく、使用された各言語の時間の長さで各言語の使用割合を計測した。その理由は時間が限られている演説に講演者(候補者)はたくさんの情報を聴衆に伝えなければならない。聴衆にとって演説の情報を得るために、講演者が話したすべての字数はどの言語かを細かく判断する余裕がないと考えられる。また、言語の使用を意識した上で、話題などにも注目した。したがって今回の研究には講演者(候補者)が演説に使用した各言語の長さを計測することで各言語の使用割合を表すことにした。続いて候補者の演説内容の話題を六つの種類に分類し、候補者の演説においてこの六つの種類の話題がスピーチの中でどの程度占めているのかを分析し話題による各言語の使用状況を明らかにする。

話し手は相手に受け入れられるため、あるいは仲間(味方)として認めてほしいために、

³⁹ 中華民國憲法公職人員選舉罷免法第56條第二款。

自分の話し方のスタイル、例えば発音、単語、使用言語の頻度などを聞き手のスタイルに近づけようと調節していく。このように、相手によって自分の話し方を調整する現象を説明するためにアコモデーション理論 (Accommodation Theory) が Howard Giles(1991)により提唱された。この理論によると、候補者は演説する時、聞き手の文化、習慣、人口構成など情報により自分の演説内容、言葉などを調節するようになる。また、選挙に勝つため一地域の人口、族群の構成、歴年の選挙結果を把握した上で選挙の作戦を考え、しかも地域の族群割合から当地域における言語使用の傾向が類推できる。Katz⁴⁰ (1980) は選挙戦略に関し、候補者は人民の関心を引くため、自然に人民の投票スタイルに合わせて自分の主張と選挙方針を調整すると指摘している。従って、候補者は市民の言語使用の好みに合わせて自分の演説を使いわけると述べている。また、施 (1999) は「候補者を推挙する能力を有する政党は、ある地域の政治や戦況をある程度読むセンスを持っており、さらにその地域を構成する族群をも尊重する」(施 1999:162) と述べている。つまり、選挙に勝つため、政党はある地域の情報を最も理解している候補者を推選し、その候補者もその地域の習慣、人民の要求によって自分の選挙方針を調節し、何を語れば市民が注目してくるか、何を話してはいけないかを演説内容に反映しに行く。

⁴⁰ Katz, Richard S(1980).A theory of parties and electoral systems.Baltimore:Johns Hopkins University Press, pp. 17-31

第四章 調査結果

4.1 演説地別言語使用の結果

謝長廷氏と蘇貞昌氏二名の候補者が四つの調査地域で行った演説内容を分析した結果を説明する。

4.1.1 謝長廷氏と蘇貞昌氏の地域による言語使用

表 5 謝氏と蘇氏の地域言語使用割合

	北京語	ホーロー語	客家語
台北市	71.6% (1677 秒)	28.1% (659 秒)	0.3% (8 秒)
新竹縣	84.7% (2186 秒)	13.7% (355 秒)	1.6% (41 秒)
台中市	11.4% (293 秒)	88.3% (2254 秒)	0.3% (7 秒)
台南縣	6.5% (129 秒)	93.5% (1842 秒)	0.0% (0 秒)
合計	45.3% (4285 秒)	54.1% (5110 秒)	0.6% (56 秒)

2008 年の台湾総統選挙に、民進党の謝長廷総統候補者と蘇貞昌副総統が調査地域で行った選挙晩会に演説の使用結果を表 5 に合計した。候補者別に分けずに両者の演説結果を合わせて分析して見ると、北部の台北市と客家地域の新竹縣で北京語が最も使用されていた言語（台北市 71.6%、新竹縣 84.7%）であることに對し、中部の台中市と南部の台南縣ではホーロー語が最も使われていた言語（台中市 88.3%、台南縣 93.5%）であることが分かった。客家語に関してはどの地域でも使用率が最小で、客家人口が多数である新竹縣でも僅か 1.6%、特に台南縣では全く使用されていないことが分析の結果からわかった。総合的に民進党二名の候補者は北京語の使用率が 45.3%、ホーロー語が 54.1%で、客家語が僅か 0.6%である。つまり、ホーロー語が全体演説使用言語の五割以上を占めてあり、北京語も四割半の使用率があることと、客家語が一割にも達していないことがわかった。

地域から各言語の使用状況を見ると、北京語とホーロー語の使用率に明らかな差があることが分かった。台北市と新竹縣で北京語は七割と八割の使用率があるのに対し、ホーロー語が三割、二割近くの使用率しかない。しかし台中市と台南縣の場合はホーロー語は九割前後の使用率で、北京語は一割前後であることが分かった。またこの結果から、どの地域でも北京語とホーロー語の使用率が半々に使われていることが明らかになった。

4.1.2 謝長廷氏の地域における演説の言語使用状況

表6 謝長廷氏の演説使用言語割合

	謝長廷氏		
	北京語	ホーロー語	客家語
台北市	83.9% (1332 秒)	16.1% (243 秒)	0.0% (0 秒)
新竹縣	97.6% (1188 秒)	2.1% (30 秒)	0.3% (5 秒)
台中市	6.5% (149 秒)	93.3% (1410 秒)	0.2% (4 秒)
台南縣	3.4% (39 秒)	96.6% (636 秒)	0.0% (0 秒)
総合	52.9% (2708 秒)	47.0% (2319 秒)	0.1% (9 秒)

続いて候補者別に言語の使用割合結果を提示していく。謝長廷候補者が四つの調査地域における行った演説に使われた言語比率を表6にまとめた。謝長廷氏は台北市で最も使用率が高いのが北京語の83.9%であり、新竹縣では北京語使用率が四つの調査地域で一番高く97.6%である。しかし調査地域が南に移動するとともに、謝長廷氏の演説における使用言語の選択も違う結果に転換した。台中市で行った演説の中で謝長廷氏最も使用した言語は93.3%のホーロー語になり、台南縣での使用率はもっと高い96.6%に上がった。この結果から、謝長廷氏が地域の違いにより言語の使い分けをしていることが明らかになった。北部の台北市と客家地域の新竹縣で謝長廷氏は大量に北京語を使い、特に新竹縣での演説ではホーロー語と客家語を合わせても使用率が3%にも満たない。しかし謝長廷氏は中部の台中市と南部の台南縣では、彼はホーロー語を演説の主な言語に使い換えている。

また、客家語の使用はどの地域でも極めて少ない。客家住民が最も多い新竹縣で行った演説でも僅か0.3%しか使われていない。また謝長廷氏は北京語とホーロー語の使用選択に関して割合の差が5%にもとどかず、大きな差ではないものの、選挙晩会における北京語の使用はホーロー語より高いことも今回の調査から分かった。

4.1.3 蘇貞昌氏の地域における演説の言語使用状況

表7 蘇貞昌の演説使用言語割合

	蘇貞昌氏		
	北京語	ホーロー語	客家語
台北市	46.7% (345 秒)	52.4% (416 秒)	0.9% (8 秒)
新竹縣	74.4% (998 秒)	23.1% (325 秒)	2.5% (36 秒)
台中市	12.3% (144 秒)	87.5% (844 秒)	0.2% (3 秒)
台南縣	5.6% (90 秒)	94.4% (1206 秒)	0.0% (0 秒)
総合	35.4% (1577 秒)	63.6% (2791 秒)	1.0% (47 秒)

蘇貞昌候補者の四つの調査地域における演説使用言語割合を表7にまとめた。蘇貞昌氏は台北市の選挙晩会で行った演説の中で北京語とホーロー語の割合が近いものの、ホーロー語の方がわずかに使用率が高く50%を超えている。また、新竹縣の場合に蘇貞昌氏は演説に北京語を主な使用言語に選んだ(北京語74.4%)。しかし北京語の使用率が高い新竹縣でも蘇貞昌氏はホーロー語を23.1%と1/4近く使用している。それに蘇貞昌氏は新竹縣で客家語の使用率が2.5%あり、これは民進党二名の候補者が唯一客家語を1%以上使った演説である。そして台中市と台南縣での演説では謝長廷氏と同じく、蘇貞昌氏が最も使用したのはホーロー語(台中市87.5%、台南縣94.4%)である。特に台南縣はホーロー語の使用率が四つの調査地域で最も高い地域である。総合的に見ると、蘇貞昌氏の北京語の使用率は35.4%で、ホーロー語は63.6%であり、客家語は1%である。これらの結果により蘇貞昌氏が演説する際に最も使用する言語はホーロー語であることが明確である。客家語は僅か1%で、北京語とホーロー語と比べると非常に低い。主に北京語とホーロー語を日常生活のコミュニケーション手段とする蘇貞昌氏が、客家語使用率1%を占めたという結果は興味深いことではないかと思われる。

4.1.4 謝長廷氏と蘇貞昌氏の地域による言語使用の比較

表 8 謝長廷氏と蘇貞昌氏の言語使用割合

	謝長廷氏			蘇貞昌氏		
	北京語	ホーロー語	客家語	北京語	ホーロー語	客家語
台北市	83.9%	16.1%	0.0%	46.7%	52.4%	0.9%
新竹縣	97.6%	2.1%	0.3%	74.4%	23.1%	2.5%
台中市	6.5%	93.3%	0.2%	12.3%	87.5%	0.2%
台南縣	3.4%	96.6%	0.0%	5.6%	94.4%	0.0%
総合	52.9%	47.0%	0.1%	35.4%	63.6%	1.0%

続いて謝長廷氏と蘇貞昌氏の言語使用調査結果を比較していく。客家人口が多数である新竹縣で行った演説において二名の候補者の使用割合を比べると、北京語の使用率は、謝長廷氏は97.6%、蘇貞昌氏は74.4%の使用率であり、両者とも新竹縣で北京語の使用率が非常に高いことがわかった。また両者とも演説地域が台湾中南部の台中市や台南縣に移動すると使用する主な言語がホーロー語に換わっている。台南縣の場合には二人ともホーロー語が95%近い使用率となり非常に高い割合となっている。

候補者の地域における言語使用比率を比較すると、謝長廷氏の北京語使用率が最も高い地域は新竹縣で、最も低いのは台南縣である。逆にホーロー語の使用率が最も高い地域は台南縣であり、最も低いのは新竹縣である。蘇貞昌氏の調査結果も同様である。二人とも客家語の使用率は高いとは言えない。客家地域である新竹縣での使用率をみても謝長廷氏は0.3%であり、蘇貞昌氏は2.5%である。もちろん二人の客家語能力が限られているためこの結果があることに注意しなければならないが、それでも蘇貞昌氏の客家語使用率は謝長廷氏より遥かに高いことがわかった。最後に謝長廷氏と蘇貞昌氏の北京語およびホーロー語使用率を順次に並べたのが次の表9である。表を見て分かるように北京語とホーロー語では全く逆の結果となった。

表9 謝長廷氏・蘇貞昌氏の言語使用順

	北京語	ホーロー語
謝長廷氏	新竹縣>台北市>台中市>台南縣	台南縣>台中市>台北市>新竹縣
蘇貞昌氏	新竹縣>台北市>台中市>台南縣	台南縣>台中市>台北市>新竹縣

表9の通り、謝長廷氏と蘇貞昌氏は北京語とホーロー語の使用には一致した順位が出た。この実態も後の考察により検討する価値があると思われる。

ここまでは謝長廷氏と蘇貞昌氏の選挙晩会における言語使用について共通点を明らかにしたが、続いて二人の相違点について検討しようと思う。

表10 謝長廷氏・蘇貞昌氏の言語使用相違点

謝長廷氏	蘇貞昌氏
<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体的に北京語の使用率が一番高い。 2. 台北市での使用率は北京語>ホーロー語。 3. 客家語は新竹縣と台中市での演説しか使用しなかった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体的にホーロー語の使用率が一番高い。 2. 台北市での使用率はホーロー語>北京語。 3. 客家語を新竹縣、台中市だけではなく台北市でも使用した。

まず、謝長廷氏と蘇貞昌氏の間にも最も違うところは個人の全体的言語使用率を見ると、謝長廷氏の一番高い使用率は北京語で、ホーロー語の割合は50%に満たない結果に対し、蘇貞昌氏の最も高い使用率はホーロー語で、北京語の使用は四割に達しないことがわかった。また、台北市での演説で謝長廷氏は北京語83.9%の使用でホーロー語より遥かに高い結果であるのに対し、蘇貞昌氏は台北市で北京語(46.7%)よりホーロー語(52.4%)の方が高い。謝長廷氏は台北市と新竹縣での演説で北京語が最もよく使われていたが、蘇貞昌氏は新竹縣での演説だけ北京語の割合がホーロー語より高く、他の三つの地域全てで最も使われていたのはホーロー語である。

客家語の使用率が極めて低いことは、二人に共通する特徴である。特に台南縣の演説で二名とも使用率が0%であり、つまり客家語の使用は一切ないのであるが、二人の客家語使用結果をよく比べると、謝長廷氏は新竹縣と台中市での演説に客家語を使っているのに

対し、蘇貞昌氏のほうは新竹縣と台中市だけではなく台北市でも客家語を使用している。台北市の比率は1%近く、新竹縣では2.5%が使用しており、これは謝長廷氏より蘇貞昌氏は演説するとき客家語の使用を意識しているのではないか、と考えられる。

4.2 演説話題別言語使用の分析

講演者は演説の中で聞き手との距離を縮めようとするため、「仲間意識」を立ち上げることで聞き手が自分の味方になる。游(1999)は演説に運用される具体的な政略に関し三つの考えがあり、それは「共通点」(commonality)⁴¹、「共通認識」(common premise)⁴²と「共通敵」(common enemy)⁴³であることを指摘している。「共通点」というのは本来は相違性を持つ人々がお互いの間に実体、特質あるいは利益の上に共通のところを探し当てて両者の仲間意識を立ち上げることである。例えば講演者と聞き手の間で共通の経験を強調することはそういうことである。「共通認識」というのはある目標の成立を達成することを説得するため両側の意見を一致させることである。例を挙げると演説で台湾の自主性はかけがえのないことだと主張することで聞き手との共通認識を作ることはそうである。最後は「共通敵」であり、「共通敵」という概念は「敵」(them)と「我々」(us)の実体や特質性を区別する線を見つけることにより、聞き手と講演者を「我々」の線に入れることで、聞き手と講演者の共通敵を作り上げる。蘇貞昌候補者は演説で中国が台湾農産物を産地偽装することを批判するときに、「皆さん、何か不満がありますか?…(中略)北京へ訴訟しに行ってもいいですよ。時間がありますか?お金がありますか?勝てると思いますか?共産党と訴訟して見れば?私なら絶対負けるから。」⁴⁴というような発言で、「我々」と「中国」を区別し、台湾人民が中国共産党に対抗する敵対感を作り上げる。

4.1節で謝長廷氏と蘇貞昌氏が四つの調査地域での演説使用言語割合を分析した。次にはさらに演説の内容に出た話題をまとめ分析し、候補者は演説にどんな話題を使うか、また候補者の中で話題と言語選択の関連性があるかどうかを明らかにする。

4.2.1 話題の分類

筆者は民進党の候補者が演説における話題の使用を分析することを通して、候補者が演説に使う言語の実態を明らかにし、演説内容により筆者は候補者の演説話題を分類し、分

⁴¹游(1999)の原文は「實體認同」であるが、筆者は英語の意味により「共通点」に翻訳する。

⁴² 原文には「意見認同」に翻訳する。

⁴³ 原文には「仇敵認同」に翻訳する。

⁴⁴ 蘇貞昌氏 2008.3.15 台南縣晩会。

析、考察を行うことで、民進党の候補者は支持を得るためどんな話題を用い、話題別によりどの言語が頻繁に使われているかを明らかにする。

游(1999)が提出した演説に運用する三つの政略に基づき、4.2.1節で筆者は候補者の演説を大きく二つに分けた。民進党の候補者によいイメージが付けられる話題、もう一方は相手の政党や候補者、政策に批判したりする話題である。さらにこの二種類の話題の主題によりはっきり区別し、六つのタイプに分類する。六つの種類に分類し、謝長廷氏と蘇貞昌氏が演説に各話題が全体の演説に何%占めるかを計測し、候補者が選挙晩会における演説に使用する話題の実態を明らかにする。選挙晩会の活動にする候補者の演説内容はこの六つのタイプに加えて当時に起こった事件や国際ニュースなどに対する評論を演説内容に入れることも多かった。例えば選挙晩会で228事件について評論したり、国民党籍である四名の立法委員が民進党の選挙本部に突入する事件⁴⁵や馬英九氏へのグリーンカード所持疑惑⁴⁶など話題で相手（国民党籍候補者）を批判したりすることで聞き手に自分の言論を認めてもらう。

今回の調査で候補者の演説を話題により六つのタイプに区別することにした。

- (A) 挨拶型
- (B) 自己アピール型
- (C) 台湾意識型
- (D) 国民党批判型
- (E) 馬英九候補者批判型
- (F) 中国批判型

この六つのタイプの話題はよく謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説に出てくるが、必ずしも毎回の演説に全部のタイプの話題が出てくるわけではない。謝長廷候補者の台北市での演説には(F)中国批判に関する話題がはっきり出てこなかったし、蘇貞昌候補者の演説でもそうであり、新竹縣で(B)の話題と台中市での演説に(F)の話題がなかったという場合もある。また、候補者の演説に、一段の発話の中に複数の解釈が成り立つ場合が少なくない。このような発話内容をどの基準で六つの話題タイプに区別するかというと、筆者は一段の

⁴⁵ 2008年3月12日に国民党所属四名の立法委員が許可を得ないまま民進党の選挙本部に突入し、現場に抗議しに来た民進党の支持者と衝突が起こった事件である。

⁴⁶ 国民党候補者馬英九氏が1977年に取得したグリーンカードの所持疑惑ことに謝長廷氏陣営と一部のメディアなどは批判していた。

発話の主語によりその話題がどのタイプに入るか判断する。例えば馬英九氏を批判する談話の内容に国民党や中国との経済政策などの言葉もよくあらわれるが、この談話の動作主、いわゆる主語は国民党や中国ではなく、馬英九氏になるため、この発話を（E）馬英九氏批判型に入れることにした。続いて六つの話題タイプについて説明しようと思う。

(A) 挨拶型

この種類の話題は演説の最初に使われ、主な機能は現場にいるゲストと舞台の下の聞き手に挨拶したり、自己紹介したりすることと、演説の最後に聞き手が来てくれたことに感謝の気持ちを伝えたり、支持を願ったりすることである。

例文：

「感謝，我尚親密的夥伴貞昌兄，各位後援會的會長，各位關心咱台灣，關心咱經濟發展的各位長輩，…(内略)，大家晚安大家好，大家晚安大家好」（訳：ありがとうございます。私の一番親しい仲間の貞昌さん、後援会の会長さん、我々台湾、我々経済の発展に関心を持っている皆さん。…(中略)，こんばんは、こんばんは。)

(謝長廷 2008. 03. 01 台中市晚会)

この種類の話題は演説の最初と最後しか使わない。しかも演説の中で比率は高くないが、演説のはじめと終わりとしてなくてはならない話題であるため、毎回の演説に必ずある。興味深いのは、蘇貞昌候補者は（A）の挨拶型でよくホーロー語で「我是蘇貞昌」（訳：私はソーチンチョンです。）、「衝！衝！衝！」（訳：衝は「行け」、「GO」の意味で、ホーロー語の発音も「チョン」である）挨拶するというスタイルである。「昌」と「衝」の発音が同様に「チョン」であり覚えやすいし、また聞き手に「衝！衝！衝！」（訳：行け！行け！行け！）と掛け声をかけてもらうことで場を盛り上げる効果がある。そもそもこのセリフは、あるバラエティー番組の物真似ショーで蘇貞昌氏を真似する芸能人の口癖であったが、その物真似の認知度が高くなり、本物である蘇貞昌氏もこの台詞を自分の演説に使い始めた。

(B) 自己アピール型

このタイプは演説に自ら所属している政党（民進黨）が過去執政の成果、民主化運動に対する努力の実績を言及したり、自分の政策をアピールしたりするタイプである。

例文：

「這八年民進黨實在是很拚」（訳：この八年間民進黨は本当に頑張っているのです）

(蘇貞昌 2008. 03. 21 台北市晩会)

自分こそ台湾、人民を守ると強調するなどの話題は (B) の範囲内とする。このタイプの特徴は自分の政策、理念と所属している政党の長所を強調し、アピールするため、聞き手に積極的印象を与える。聞き手に彼ら（候補者あるいは候補者所属の政党）しか台湾の民主と利益を守りきれないとイメージさせ、さらに民進党の場合は民進党と台湾が繋がり、民進党を選ぶ＝台湾を選ぶという概念を宣伝することが多い。ただし逆に「今日謝長廷氏と蘇貞昌氏に支持しないと、これからの未来は…」というような言葉で相手の国民党候補者に投票すると台湾の民主が奪われたり、中国に合併されたりするというようなマイナスなイメージを与え、自分を選んだらこのようなことはさせないと暗示する場合もある。

(C) 台湾意識型

このタイプは「台湾人」、「我々台湾は…」など言葉を使って台湾の主体性や台湾人の努力さ、あるいは台湾文化、産業の競争力、政治の民主性を主張することで、聞き手に認めてほしいというのが特徴である。

例文：

「我覺得，台灣人就是這樣，用自己的力量，一步一步，走上我們今天的民主、開放、自由的生活方式…」(訳：台湾人は自分の力で一步一步つつ、今の民主、開放、自由な生活スタイルへ歩いてきたと私は思います)

(蘇貞昌 2008. 03. 13 新竹縣晩会)

過去の台湾の歴史の発展を述べる際に、「台湾人」の苦勞を強調し、哀愁な雰囲気を作って聞き手に共鳴をもたらす。またこのような話題で聞き手と自分(あるいは自分の政党)を繋ぎ、「我々」という言葉を大量に使うことを通して聞き手と候補者を同一の立場に移転させる。これもタイプ (B) と呼応しながら、「台湾＝民進党」というメッセージを伝える機能がある。このタイプも (A) と (B) と同じく積極的なイメージを聞き手に与えられる。

(D) 国民党批判型

国民党への批判を話題の中心とするのはこのタイプの特徴である。過去と現在国民党が起こした歴史事件や言論を批判し、また大量の時事への評論を演説に入れることが多い。例えば 228 事件について国民党の過去の犯行と現在の態度や、国民党の対中国政策、国民

党籍立法委員の民進黨總統選舉本部突入事件など時事への評論、批判する話題はこのタイプである。

例文：

「國民黨認為說他四分之三了阿，他現在一黨獨大了啊，要怎麼樣就怎麼樣啊，…」(訳：国民党は自分が立法院で3/4席を占めている多数者と思ってる。今一番権力を持つてる政党ですから、好きにやっても構いません。…)

(謝長廷 2008. 03. 13 新竹縣晩会)

(D) 話題が (B) や (C) と違うのは国民党に対する批判が主な話題であるため、攻撃性があるしかもマイナスなイメージである。4.2の最初に書いた「共通敵」の概念のように、(D) タイプには聞き手と講演者を「我々」に入れ、批判対象である国民党を「敵」にする手段で聞き手と講演者の仲間意識を強化する。

(E) 馬英九氏批判型

民進黨二名の候補者の演説に国民党を批判する時、馬英九候補者への批判も多少含めているので、(E) タイプは (D) とはある程度の共通性があるが、ここで馬英九候補者本人の言論と行為、政策への批判する話題が (E) の定義になる。馬英九氏のグリーンカード所持疑惑、兩岸市場政策などへの話題は (E) タイプである。

例文：

「如果馬先生不放棄，他當選了總統，他可能是全世界，美國以外唯一擁有美國居留權的總統啊，這個是個可恥的事情啊」(訳：もし馬さんは(グリーンカードを)放棄せずに總統に当選したら、彼は世界中で、アメリカ以外唯一アメリカ居留権を持つ總統かもしれませんよ。これはとても恥ずかしいことです。)

(謝長廷 2008. 03. 21 台北市晩会)

(F) 中国批判型

労働力過剰問題、中国産商品、食品安全性問題など中国近年のニュース事件を挙げ、中国が台湾に損害を及ぼす話題を作って批判したりするのは (F) タイプの特徴である。

例文：

「中國勞工來誰受害?咱的工人受害啊。…(内略)咱有辦法活下去?咱沒辦法啊。」(訳：中国の労働者がもし台湾に来たら誰の利益が損なわれるのでしょうか?…(中略)、このまま

では私たち生き残れますか？無理ですよ。)

(謝長廷 2008. 03. 15 台南縣晩会)

(F) タイプの談話内容では、例えばアメリカの大統領予備選の時、民主党党内のヒラリー・クリントンとバラク・オバマによる中国生産品への批判を引用して謝長廷氏も蘇貞昌氏も演説に用い、民進黨の反中国言論と国民党対中国への批判をより正当化するのが (F) タイプでよく使用されるパターンである。中国への批判する話題が多いため、(D) と (E) タイプと同様にマイナス面の印象を聞き手に与え、中国への不信感を増やす特徴がある。

(A)、(B)、(C) の話題は積極的面であり、聞き手に候補者への信用感をより凝集させるタイプであり、(D)、(E)、(F) のほうは消極的面で聞き手に国民党候補者への反発と不信感を増やさせ、自分への支持に転じることを期待する機能があるタイプである。続いて謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における話題の分析結果を説明する。

4.2.2 謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における話題別言語使用の総合的分析

表 11 謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における話題使用割合

話題	(A) 挨拶型	(B) 自己アピール型	(C) 台湾意識型	(D) 国民党批判型	(E) 馬英九氏批判型	(F) 中国批判型
	6.1% (576 秒)	21.4% (2023 秒)	10.7% (1007 秒)	18.7% (1765 秒)	32.6% (3077 秒)	10.6% (1003 秒)

謝長廷氏と蘇貞昌氏が調査地域において演説した内容を話題により分類した結果を表 11 にまとめた。総合的に二名の候補者の演説を見ると、最も割合が高いのは (E) タイプの 32.6% で、最も低いのは (A) タイプの 6.1%。また (C) と (F) の間に差が僅かの 0.1% であることが分かった。六つの演説話題タイプを順番に並べるとこの順次が出てきた。

(E) > (B) > (D) > (C) > (F) > (A)

続いて六つの話題タイプの中に使用言語の割合を分析した結果を表 12 に示した。

表 12 謝長廷氏と蘇貞昌氏各話題に使用する言語割合

	北京語	ホーロー語	客家語
(A) 挨拶型	28.6% (165 秒)	62.8% (362 秒)	8.5% (49 秒)
(B) 自己アピール型	41.7% (843 秒)	58.3% (1180 秒)	0.0% (0 秒)
(C) 台湾意識型	38.8%(391 秒)	60.6% (610 秒)	0.6% (6 秒)
(D) 国民党批判型	54.9% (969 秒)	45.1% (796 秒)	0.0% (0 秒)
(E) 馬英九氏批判型	48.1% (1481 秒)	51.8% (1595 秒)	0.0% (1 秒)
(F) 中国批判型	43.5% (436 秒)	56.5% (567 秒)	0.0% (0 秒)
合計	45.3% (4285 秒)	54.1% (5110 秒)	0.6% (56 秒)

全体でホーロー語は最も高い 54.1%を占め、次には北京語の 45.3%と客家語の 0.6%という割合である。六つの話題タイプで (D) タイプだけはホーロー語より北京語の方が割合が高く、他の五つのタイプでは全てホーロー語がより高い。つまり、民進党所属二名の候補者は話題における言語の使用がホーロー語のほうがよく使われていることがわかった。北京語の使用状況から見ると、(D) タイプだけは五割以上の使用率がある。一方、ホーロー語のほうは (A) と (C) とともに六割以上の使用率があり、客家語の場合は (A) で 8.5%を占めているが、他では 1%も満たない。この調査結果から、民進党の候補者は演説においてはより多いホーロー語を使って聴衆の注意を引き付けようとしていたことがわかった。人民の民進党政府への支持率が低下しているこの選挙に対し、与党として政権を八年間保持している民進党にとって、最も多数であるホーロー人を主要な支持者と見なし、できるだけホーロー人に認めてほしいということが読み取れる。しかしその一方、(D) 国民党批判型の話題に北京語の使用率はホーロー語より高い。松尾(2006)は台湾の大学生における台湾各言語変種に対する評価の調査を実施した。その調査結果に国語(北京語)に対する否定的評価を得た項目は「ユーモア」(松尾 2006:92)であると述べている。「戦後の国民党政権によって強制される言語であるという側面も併せ持つ」(前掲:94)。民進党所属二名の候補者の演説には、「国民党」を主語とする話題にはより多い北京語を使用したことで、聴衆と候補者が一体になって、国民党との間に一層距離感と厳粛さを与え、聴衆に国民党への反発感を持たせようとする事がうかがえる。

4.2.3 謝長廷氏の演説における話題別言語使用の分析

次に二名の候補者を分けてそれぞれの演説話題割合を分析しようと思う。まず謝長廷氏の演説に出る話題の割合と各話題に使用言語の状況を表 13 にまとめる。

表 13 謝長廷氏の演説における話題割合

話題	(A) 挨拶型	(B) 自己アピール型	(C) 台湾意識型	(D) 国民党批判型	(E) 馬英九氏批判型	(F) 中国批判型
	5.0% (252 秒)	27.5% (1383 秒)	12.4% (624 秒)	19.6% (986 秒)	28.9% (1457 秒)	6.6% (334 秒)

謝長廷氏の演説で最も高いのは (E) タイプの 28.9% で、次は (B) の 27.5% である。(E) と (B) とともに全体の演説話題の四分の一を占めている。この結果から、謝長廷氏は演説する時に馬英九氏への批判と自分のよい面をアピールする話題がそして最も低いのは (A) の 5.0%。謝長廷氏の演説に民進党政府の執政成果、自分が提出する政策の長所と相手の馬英九氏を批判する話題が最も時間をかかった。民進党が推選した総統候補者として、謝長廷氏は自分のことを敵方の同じ総統候補者である馬英九氏と直接に比較することで、自分の長所をアピールし、有権者の支持を求める。結果として謝長廷氏の演説における話題に (B) 自己アピール型と (F) 馬英九氏批判型の使用割合の差が少ない。謝長廷氏は選挙に関する作戦はこの結果から少しでもうかがえるではなかろうか。続いて六つの演説話題タイプを順番に並べたら次のような結果になる。

(E) > (B) > (D) > (C) > (F) > (A)

表 14 謝長廷氏の話題における言語使用割合

	北京語	ホーロー語	客家語
(A) 挨拶型	57.1% (144 秒)	39.3% (99 秒)	3.6% (9 秒)
(B) 自己アピール型	54.0% (747 秒)	46.0% (636 秒)	0.0% (0 秒)
(C) 台湾意識型	48.9% (305 秒)	51.1% (319 秒)	0.0% (0 秒)
(D) 国民党批判型	69.7% (687 秒)	30.3% (299 秒)	0.0% (0 秒)
(E) 馬英九氏批判型	50.6% (737 秒)	49.4% (720 秒)	0.0% (0 秒)
(F) 中国批判型	26.3% (88 秒)	73.7% (246 秒)	0.0% (0 秒)
合計	52.9% (2708 秒)	47.0% (2309 秒)	0.1% (9 秒)

謝長廷氏の演説で (A)、(B)、(D)、(E) では北京語の使用率がホーロー語、客家語より高く、(C) の台湾意識型と (F) の中国批判型では北京語や客家語よりホーロー語が高いことが分かった。客家語は (A) では 3.6% の使用率で、他のタイプで謝長廷氏は使用しなかった。北京語が一番高くホーロー語が一番低いのは (D) タイプである。北京語とホーロー語の割合の開きが最も小さいのは (E) タイプの 1.2% である。逆に差が最も大きいのは (F) の 47.4% である。

4.2.4 蘇貞昌氏の演説における話題別言語使用の分析

続いて、副総統候補者である蘇貞昌氏の話題使用状況を分析し、蘇貞昌氏の演説に使用する話題の割合と話題における言語使用状況を明らかにしたい。その結果を以下のようにまとめた。

表 15 蘇貞昌氏の演説における話題割合

話題	(A) 挨拶型	(B) 自己アピ ール型	(C) 台湾意識 型	(D) 国民党批 判型	(E) 馬英九氏批 判型	(F) 中国批判型
	7.3% (324 秒)	14.4% (640 秒)	8.7% (383 秒)	17.6% (779 秒)	36.7% (1620 秒)	15.2% (669 秒)

蘇貞昌氏の演説で最も割合が高いのは (E) タイプの 36.7%であり、しかも他の話題より明らかに高いことがわかった。そして (A) の 7.3%は蘇貞昌氏の演説で最も低い。同様に六つの演説話題タイプを順番に並べたら次のような結果になる。

(E) > (D) > (F) > (B) > (C) > (A)

蘇貞昌氏の演説に割合が最も高い前三種類ともは批判型の話題であり、この三つの話題の割合を足したら、69.5%でほぼ全体演説の7割近い結果から見ると、蘇貞昌氏は批判的な言論を演説の重心にし、相手の国民党や中国を攻撃することで聞き手の共鳴を求めようとするのではないかと考えられる。

表 16 蘇貞昌氏の話題における言語使用割合

	北京語	ホーロー語	客家語
(A) 挨拶型	6.5% (21 秒)	81.2% (263 秒)	12.3% (40 秒)
(B) 自己アピール型	15.0% (96 秒)	85.0% (544 秒)	0.0% (0 秒)
(C) 台湾意識型	22.5% (86 秒)	76.0% (291 秒)	1.6% (6 秒)
(D) 国民党批判型	36.2% (282 秒)	63.8% (497 秒)	0.0% (0 秒)
(E) 馬英九氏批判型	45.9% (744 秒)	54.0% (875 秒)	0.1% (1 秒)
(F) 中国批判型	52.0% (348 秒)	48.0% (321 秒)	0.0% (0 秒)
合計	35.4% (1577 秒)	63.6% (2791 秒)	1.0% (47 秒)

蘇貞昌氏の話題使用状況で、北京語がホーロー語、客家語より高いのは (F) 中国批判型のみである。他のタイプでは全てホーロー語の割合が一番高い結果が分かった。客家語の場合は (A) タイプでは 12.3%を占め、北京語の 6.5%より高い。(C) タイプでも 1.6%がある。話題における言語と言語の開きを見ようとすると、(F) タイプ以外ではホーロー語が明らかに北京語より高い。その中で (A) タイプが北京語とホーロー語の開きは最も多くて 74.7%あり、逆に (F) タイプには 4%しかないと分かった。

4.2.5 謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における話題別言語使用の比較

謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における話題使用実態を分析した結果から、二人とも演説する際に話題を運用する割合の最も高いのは (E) の馬英九批判型であり、最も低いのも同

じく (A) の挨拶型であることが分かった。従って、(E) 馬英九批判型は民進党二名の候補者が共通する演説方略であることが伺える。また、言語使用率から見ると、客家語が一番よく使われていたのは (A) 挨拶型であるという結果は両者とも同様にみえる。特に蘇貞昌氏の場合は、(A) のタイプで客家語の割合が北京語より高い。それは蘇貞昌氏は新竹縣での演説に全体としては北京語が多いが、挨拶では謝長廷氏は (A) タイプのみ客家語の使用があるのに対し、蘇貞昌氏は (A)、(C) と (E) タイプで客家語を使用した。

北京語の話題における使用状況について、謝長廷氏の演説で使用率が最高なタイプは (D) の 69.7% で、最低のタイプは (F) の 26.3% である。蘇貞昌氏のほうは使用率が最も高いのが (B) の 52.0% であり、最も低いのが (A) の 6.5% である。

続いてホーロー語の場合、謝長廷氏で最も高いのが (F) の 73.3% で、最も低いのは (D) の 30.3% である。蘇貞昌氏の割合が最も高いタイプは (B) の 85.0% であり、最低のタイプは (F) の 48.0% である。また二人は北京語とホーロー語の使用率が (F) タイプでは完全に逆の結果となった。(C) タイプでは二人ともホーロー語が北京語より高いことが明らかになった。両者共通している点は六つの話題のタイプで、北京語、ホーロー語、客家語の三言語混用が最も使用されているのが (A) タイプということである。つまり候補者は演説の最初と最後に言語の使い分けが頻繁である。游 (1999) は「もし最初からよいイメージを聴衆に与えられるなら、後の発言はよりうまく行ける」(游 1999:156) と指摘している。つまり、演説の最初にどの族群の聴衆にも親しいイメージを与えようとするため候補者は多言語混用を頻繁に利用したと考えられる。

第五章 言語使用、話題使用と相互に関係のある要因

第四章で謝長廷氏と蘇貞昌氏二名の候補者の演説中での使用言語、またその話題に関する使用比率の実態を明らかにし、二人の共通点と相違点を得た。本節ではこれらの結果と関係ある要因を明らかにしていく。

5.1. 候補者の背景

まず、今回の研究対象である民進党籍の謝長廷総統候補者と蘇貞昌副総統候補者の背景と経歴を通して二人の言語使用と関係ある要因を考察する。

謝長廷氏は台湾台北市に生まれ、戒厳令時代に「美麗島事件」において、謝長廷氏は弁護団として事件の逮捕者の弁護団に参加し活躍した⁴⁷。1986年民進党が創立されたとき、謝長廷氏は創始党员であり、「民進党」の命名者でもあった。謝長廷氏は1985年から台北市市議会議員、立法委員、高雄市市長、民進党主席また行政院院長などの職務を勤めた⁴⁸。

表 17 謝長廷氏の経歴

職務勤め期間	職務名
1981年～1989年	台北市市議会議員
1989年～1998年	台湾政府立法院委員
1998年～2005年	高雄市市長
2005年～2006年	台湾政府行政院院長

蘇貞昌氏の出身地は台湾屏東縣であり、謝長廷氏と同じく台湾大学法律学科を卒業した。「美麗島事件」では蘇氏も逮捕者の弁護を務めていた。その後は民進党に入り、創始党员でもあった。民進党への入党前後には屏東縣省議員、屏東縣縣長、立法委員、台北縣縣長に就任し、2006年に行政院院長を務めていた⁴⁹。

47 今回の民進党候補者謝長廷氏、蘇貞昌氏と元総統陳水扁氏三人とも当時の弁護団に入った。

48 謝長廷氏の経歴は「峰迴路轉-謝長廷的政治攀岩與總統路」(陳重生 2008)を参考した。

49 蘇貞昌公式ウェブサイト <http://www.eball.org.tw/>を参照。

表 18 蘇貞昌氏の経歴

職務勤め期間	職務名
1981年～1989年	屏東縣省議会議員
1989年～1993年	屏東縣縣長
1996年～1997年	台湾政府立法院委員
1997年～2004年	台北縣縣長
2006年～2007年	台湾政府行政院院長

謝長廷氏の出身地である台北市に関し、第三章の調査地域概要において台北市の説明をしたとおり、台湾にいる半分近くの外省人は台北地域に在住している。外省人の人口密度からすると、台北市での北京語使用は比較的に頻繁であろう。黄（1995）が1987年に台北市市民を対象に実施したアンケート調査によると、調査対象である台北市民の中の外省籍出身者でホーロー語が話せるのは49.5%で、客家語が話せるのは4%である。客家人は、北京語が話せるのは100%で、ホーロー語が話せるのは71.8%、客家語が73.6%を占めている。一方、ホーロー人は北京語を話せるのは98.4%であり、ホーロー語は100%話せ、客家語は2.5%である。そして調査協力者のほとんどは北京語が話せる（99.2%）。また協力者の中で外省籍出身者は全体の40.6%を占めている。

表 19 1987年台北市市民言語能力表⁵⁰

	北京語	ホーロー語	客家語
外省籍	100.0%	49.5%	4.0%
ホーロー籍	98.4%	100.0%	2.5%
客家籍	100.0%	71.8%	73.6%
総計	99.2%	82.4%	12.6%

この調査結果から台北市における北京語の使用率と地位の優位がわかった。中華民国の首都である台北市で過去国民党が推進した国語普及政策は都市機能性から見れば、当然のことであった。

⁵⁰ 黄（1995:144-147）の調査結果を基に筆者が作成した。

台北市で生まれ育った謝長廷氏は、高雄市長就任期間以外、政治に携わる活動はほぼ台北市が中心になった。このような北京語が優勢言語である環境で、次第に北京語の使用意識が強まり、今回の調査で北京語の使用率が蘇貞昌氏より高い結果が出たのではないかとと思われる。

一方、屏東縣出身の蘇貞昌氏は台北の台湾大学に通う以前は屏東縣で過ごした。大学卒業後屏東縣で台湾省議員⁵¹と屏東縣縣長を勤めており、1997年～2004年は台北縣縣長を担当していた。そこで屏東縣と台北縣における族群割合から蘇貞昌氏の言語使用との関連性を考察して行く。

表 20 屏東縣と台北縣における族群割合⁵²

	外省人	ホーロー人	客家人	原住民諸族	その他
屏東縣	5.0%	66.6%	18.5%	7.2%	2.7%
台北縣	10.7%	68.2%	11.5%	1.2%	8.4%

屏東縣でも、台北縣でもホーロー人の割合が六割以上を占めており、最も人口が多い族群である。台北縣における25の行政区画の中で、ホーロー人は19の地域に群集している⁵³。また、一般的に台湾社会において中部と南部がホーロー語の使用が、北京語より頻繁であるとの言説を耳にすることが多い⁵⁴。このことから、長年台湾南部で政治に携わってきた蘇貞氏は縣民との対話や、支持を求める時にホーロー語を使用するのが、お互いの距離を近くする最もよい手段だと実感したといえるのではなかろうか。

客家語の使用状況について。謝長廷氏と蘇貞昌氏も今回の調査では異なる結果が出た。蘇貞昌氏は全体の言語使用割合に客家語は僅か1%だが、客家地域である新竹縣では客家語使用率は2.5%であり、客家語使用意識に関して蘇貞昌氏は謝長廷氏より高いと考えられる。蘇貞昌氏の出身地屏東縣と彼の客家語使用意識との関係を考えて見ると、屏東縣で客家人人口は全体の18.5%であり、5分の1近くを占めている。屏東縣の「六堆」という地域は、18世紀からすでに大陸から客家人が移り住み、生活しているところで、最も早く発展した客家地域である。1988年客家人權益を主張する集会「六堆客家之夜」を行

⁵¹台湾省議会 1998年まで中華民国の台湾省に設置された地方議会である。1997年に憲法修正(増修条文改正)により台湾省の機能凍結が決まり、1998年12月に省議会は廃止されたのである。

⁵²全国客家人口基礎資料調査研究(2008)をもとに作成。

⁵³全国客家人口基礎資料調査研究(2008)の「鄉鎮市區族群人口分布分類:97年調査」を参考。

⁵⁴台湾中南部のホーロー語使用状況に関し、日本の財団法人交流協会高雄事務所の高雄市概要にも「高雄及び南部では台湾語の使用率が高い」と書かれてある。(以下ホームページ参照)

http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/e23_contents.nsf/16/A185709AF9C7119D49257068001848CF?openDocument

ったのはこの六堆であった。屏東縣はまた台湾において最初に客家事務処を設置した都市でもある⁵⁵。客家族群が屏東縣にとっても影響力があることはこれらから感じられる。この屏東縣で議員、縣長を勤めていた蘇貞昌は客家籍の住民の支持を求めるならば、客家語を学ぶことが客家人の支持を求める一つの手段になる⁵⁶ことを知っていた。このような背景もまた蘇貞昌氏が今回の調査で謝長廷氏より客家語の使用率が高い要因の一つとも考えられる。

5.2. 聴衆の構成

游（1999）によれば選挙活動、いわゆる「造勢晚会」⁵⁷に来る人々は三つの種類に分けられる。游は「通りがかりの聴衆」と「受動的聴衆」、「主動的聴衆」の三種類に定義した⁵⁸。三種類のタイプの聞き手を意識し、候補者は当地域での演説方法を調整する。また、聞き手の種類により候補者の演説方法が影響される以外、聞き手の族群構成も候補者は演説に使用する言語の割合に影響する一つの要因だと考えられる。

表 21 調査地域の人口構成⁵⁹

	ホーロー人	外省人	客家人	原住民族	その他
台北市	63.7%	16.8%	9.9%	0.6%	9.0%
新竹縣	24.9%	6.0%	62.1%	2.8%	4.2%
台中市	72.2%	9.7%	7.4%	1.1%	9.6%
台南縣	84.5%	5.2%	3.8%	0.9%	5.6%

表 21 にまとめたように、台北市、台中市と台南縣で最も多いのがホーロー人であり、特に台南縣では 80%以上が全部ホーロー人であることがわかった。しかし、第三章の調査地域に説明した通り、台北市の外省人は僅か 16.8%だけの割合であるが、全国およそ半分の外省人が台北地域に集中していることも注意しなければならない。そして、新竹縣ではホーロー人が 25%近く、およそ全体人口に四分の一を占めているが、客家人は半分

⁵⁵ 屏東縣客家事務処は 1992 年に設置した。(以下に参照)

<http://www.pthg.gov.tw/planhab/CmsShow.aspx?Parm=2006111393853196,1> (2009 年 5 月 10 日検索)

⁵⁶ 蘇貞昌の公式ウェブサイトには「蘇貞昌擔任屏東縣長時，跑遍所有客家莊、原住民村，為了與在地鄉親能夠直接溝通，他也努力請人教他客家話、原住民話，直到現在，只要蘇貞昌出席客家鄉親或原住民的聚會時，他一定以當地民眾聽得懂的話來開場，他覺得這是對不同族群人民最基本的尊重」と書かれてある。(以下に参照)
<http://www.eball.org.tw/about.php?pid=4>

⁵⁷ 台湾で選挙の時期に候補者はいろんな活動を行うが、活動は普通に夜にするのため、「晚会」と呼ばれる。

⁵⁸ 游（1999）の原文「流動聽眾」、「被動聽眾」、「主動聽眾」に筆者が訳した。

⁵⁹ 全国客家人口基礎資料調査研究(2008)をもとに作成。

以上の62%が占めている。

調査地域の人口構成を通して謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における言語使用割合を見ると、二人ともホーロー人が多数である台中市と台南縣で行った演説で最も高いのはホーロー一語であり、外省人が密集した地域である台北市の場合は謝氏と蘇氏とも自分の演説に使用する言語の割合を調節し、謝長廷氏と蘇貞昌氏の北京語における使用率が高くなったことがわかった。客家人が最も多い新竹縣の選挙晩会で、謝長廷氏と蘇貞昌氏は演説に北京語を主な使用言語にしたことが分かった。これらの結果から一地域の人口割合が確かに候補者の演説の言語使用に影響すると言えるであろう。だが、新竹縣での選挙晩会に謝長廷氏と蘇貞昌氏は自分がより熟達なホーロー語ではなく、北京語で演説の主な使用言語にしたのはなぜであろう。

17世紀から中国大陸から移住した漢人は土地の開墾を進めたが、当時不安定な生活環境において自分の土地、水源を守るため団体を組織しなければならなかった。王(2004)は台湾初期に漢人が団体を作るその特性に対し「兄弟結拜情節(義理兄弟の契りコンプレックス)」という言葉で台湾に移住した漢人の現象を述べている。つまりもともとお互いに関係がない人々は、出身地、血縁、宗教など共通点で兄弟のような関係を作るために共同体を形成し、この共同体の構成員が何らかの問題をかかえた場合、守りあうと言う集団である。清朝時代にはホーロー人集団と客家人集団がする衝突事件が少なくなかった。日本統治時代に日本の管理政策により少々改善したが、現在の台湾社会においても決して完全に消えてなくなっているのではないのであると、王(2004)は指摘している。1980年代から台湾の民主化運動の動きが急速に発展し、台湾人は「台湾意識」、「台湾人」という概念を強く主張し始めた。しかしこの社会気風に、多数であるホーロー人は「台湾人意識」を揚げるうちに「ホーロー人」を「台湾人」と同一化するようになり、「台湾人、外省人、客家人、原住民」といったカテゴリー化され、「我々台湾人、彼ら客家人」というような言い方が使われるようになっていた。李(2007)は党外活動や民進党の集まりに北京語で発言する人がいたら、よく「分からないから台湾語で言って」、「台湾人なら台湾語を喋ろう」という声が聞こえたという例を挙げた(李2007:102)。

このように、客家人は同じ本省人なのにホーロー人からの不公平に対する危機感が感じ、客家人自己主張運動も始動した。河村(1998)は「住民構成において圧倒的多数を占める福佬人の存在感がさまざま強く表れるようになり、同じく漢民族でありながら少数である客家人の中から、それがまた新たな不均衡を生み出していると、抵抗を示す声が出てきたのである」(河村1998:100)と指摘している。

客家運動の始動は客家人の権利を守ったり、自己意識を呼び覚ましたりすることを要求するだけではなく、客家族群と他の族群は地位平等であると主張したことになる。洪

(1992) は「客家人のアイデンティティーにとって難しいところは、国家認同⁶⁰と郷土認同の間に存在する矛盾である。祖国として中国を認めるとすれば、自然に北京語を国語にして、北京語とホーロー人とコミュニケーションしたい。しかし、もしホーロー人はどうしてもホーロー語を使うことを堅持するなら、そこで排斥感を生み出す。中国を認めないとしてもホーロー語に納得するとは限らない。そこではホーロー人に同化される危機感があるので、日本語か北京語でホーロー人と話す方がむしろよい」(洪 1992:225-226) と指摘している⁶¹。この現象も今回の調査に謝長廷氏と蘇貞昌氏が新竹縣で行った演説で、客家語能力が限られているため、民進党の二名の候補者は上手く客家語の演説を行えない条件で、より熟達なホーロー語ではなく北京語を使用言語の主にした結果と呼応しているのではないだろうか。

⁶⁰ 河村 (1998) は「認同」に対しては「認同は名詞として identity、identification、また動詞として identify に対応する語として、1980 年代以降台湾で定着している漢語」(河村 1998:1) と解釈した。

⁶¹ 原文は「客家人的認同困境還表現在國家認同與土地認同的矛盾。如果是認同中國，便自然以北京語為國語，希望以北京話和河洛人溝通。如果河洛人堅持使用河洛話，便會產生被排斥感。如果不認同中國，也不一定對河洛話心服口服，其中還參雜一些深怕被河洛人同化的危機意識，因此寧可用日本語或北京話和河洛人溝通」(洪 1992:225-226)。

第六章 終わりに

6.1. まとめ

本研究は2008年中華民国12回総統選挙における民進党候補者謝長廷氏と蘇貞昌氏を調査対象にし、民進党所属候補者が台湾北、中、南部および客家地域において行った選挙晩会での演説内容に基づいて調査を行った。二名の候補者の四つの調査地域における選挙晩会での言語使用および話題使用の実態を明らかにし、同じ民進党所属である謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説について共通点と相違点を比較、考察した。以下は本研究の調査結果をまとめ、さらに、本研究の限界点を検討し今後の課題を提出する。

6.1.1. 謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における言語使用

民進党所属二名の候補者謝氏と蘇氏の演説結果を合わせて分析すると、台北市と新竹縣は最も北京語が使用されている都市であり、新竹縣は四つの調査地域の中で北京語の使用率が最も高い地域であることがわかった。さらに、台中市と台南縣の選挙晩会で民進党候補者謝長廷氏と蘇貞昌氏が最も多く使うのはホーロー語であり、特に台南縣の選挙晩会ではホーロー語の割合が一番高い。また、客家語に関して、客家語の使用率が極めて少ないことが二人に共通する特徴である。新竹縣でも僅かに1.6%だけである。全体的に民進党所属の候補者が選挙晩会で行った演説にはホーロー語の使用率が高いことが今回の研究でわかった。

個別の使用言語の調査結果では、謝長廷氏は台北市と新竹縣での演説はホーロー語より北京語の使用率が高い一方、台中市と台南縣での演説における主な使用言語はホーロー語であることが明らかになった。謝長廷氏の演説における言語使用状況について、四つの調査地域を総合的にみると、北京語の使用率はホーロー語より高いが、差が大きいとはいえない。しかし、単独に地域別による言語使用の調査結果をみると、どの地域でもホーロー語と北京語の使用率の差が極めて大きく、北京語とホーロー語の使用率が近い地域は一つもないため、謝長廷氏の地域による言語の使い分けは激しいことが明らかになった。

蘇貞昌氏の言語使用結果において全体的にはホーロー語の使用が明らかに北京語より高いことが今回の調査でわかった。地域別の言語使用では新竹縣だけが北京語の使用割合がホーロー語の使用割合より頻繁である。今回の調査結果から、蘇貞昌氏はホーロー語に対する使用意識が北京語より高いことがわかった。しかも客家語の使用状況に関して、蘇貞昌氏は台南縣の晩会での演説だけ客家語を使わなかった。

新竹縣での選挙晩会に謝長廷氏と蘇貞昌氏とも北京語で演説する際の主な言語になった。新竹縣においてはホーロー語より北京語が、客家人に受け入れられる言語である。これが民進党所属二名の候補者の客家地域である新竹縣における演説の使用言語意識に影響し、客家語を熟達に使用できない上で、北京語を主要言語にした要因だと思われる。

6.1.2. 謝長廷氏と蘇貞昌氏の話題における言語使用

本研究は民進党所属の謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説内容に出る話題を六つの種類に分け、二名の候補者が演説で話した話題の割合とその実態を分析した。全部六つの演説話題全ての中で、相手である国民党所属馬英九候補者への批判が二名の民進党所属候補者の演説における割合が最も高い話題であることが明らかになった。しかし馬英九候補者を批判する話題における北京語とホーロー語の使用率に明らかな差は見られない。また六つの話題において、北京語の使用率が最も高いのは国民党を批判する話題であり、ホーロー語の使用割合が最も高いのは(A)挨拶型話題であることがわかった。さらに(A)の話題だけには、北京語、ホーロー語、客家語三つの言語が混用されることが明らかになった。つまり二名の候補者にとって客家語が最も使われているのは演説の最初の挨拶と最後の謝辞である。

個別に謝長廷氏の言語使用状況を分析した結果は、客家語は(A)挨拶型の話題にのみ使用され、他の五種類の話題には一切客家語を使わなかった。また謝長廷氏の演説に最も出てきたのは(B)自己アピール型と(E)馬英九批判型二つの話題であることがわかった。というのは、謝長廷氏の演説は自ら(謝長廷自身と民進党)を宣伝することと相手を批判することであり、機能が極端に違う話題が謝長廷氏の演説の中心を構成したと考えられる。また、謝氏の演説に(C)台湾意識型と(F)中国批判型の話題はホーロー語の割合が高いが、最も多い話題であった(B)と(E)では北京語とホーロー語の割合差は大きく見られなかった。したがって、謝長廷氏の場合演説に使用する言語と話題との間に大きな関連性がないことが伺える。

一方、蘇貞昌氏の話題別言語使用状況に関し、謝長廷氏と同様に蘇貞昌の演説で使用比率が最も高いのは(E)馬英九批判型の話題である。この点から相手の馬英九候補者を非難することは二人に共通する作戦だということが伺える。さらに蘇貞昌氏の演説において馬英九批判型話題の割合が他の話題に比べ非常に高い。また蘇氏が最も使っていた前三種類の話題は(E)馬英九批判型(36.7%)、(D)国民党批判型(17.6%)と(F)の中国批判型(15.2%)であることが調査の結果から分かった。蘇貞昌氏は演説する際に自分(自分の所属政党も)の立場や理念と反対側に立つ相手を非難することを通して、聞き手にも自

分の相手を敵として見てもらったり、自分に支持するように転向させたりする方針が若干伺える。また、(E) と (F) の話題には北京語とホーロー語の使用率の差が大きく見えな
いが、ほかの四種類の話題ではホーロー語の使用率が北京語の使用率より遥かに高く、謝
長廷氏の使用結果と比較すると、蘇貞昌氏の方が、ホーロー語使用意識がより高いことが
考えられる。それと同時に、蘇貞昌氏の客家語使用率は極めて低いが、演説の最初と終わ
りに客家語が北京語より多く使われていることも、蘇貞昌氏の言語使用状況が多元的であ
ることを反映しており、客家族群の存在に対して強く意識していることを否定できない。
演説の最初で多言語使用を通して聞き手に親密感を与え、終わりに再び多言語で感謝の気
持ちを伝えることは蘇貞昌氏が演説の特徴になっており、ホーロー語と客家語の混合使用
実態も、蘇貞昌氏の公式ウェブサイトに掲載してある蘇貞昌氏を形容するタイトル「郷土意
識を重視する蘇貞昌」とお互いに呼応していると思われる。

6.1.3. 言語使用と各要因との関係

党外時期⁶²から「台湾人意識」、「台湾意識」の旗印を鮮明に揚げ、国民党政権に挑戦し
ていた民進党は多数の台湾住民の視線を引き付けており、特に台湾人口の七割を占めるホ
ーロー人にはそうである。郭(2006)が国民党と民進党の台湾人に与えるイメージの比較
について行った調査には「民進党が『台湾人を代表できる』というイメージは有権者の心
には大変鮮明でしかも益々強烈になっていると言える」(郭2006:35)と述べているし、
また郭(前掲)は「台湾人民にとって本省人利益を主張できる政党はやはり民進党である」
と指摘している(郭前掲:36)。本研究において民進党所属二名の候補者は選挙晩会におけ
る演説においてホーロー語が主な使用言語であり、民進党の候補者は今回2008年の総統
選挙でも台湾で最も多数者であるホーロー人の支持を求める上でホーロー語を多く使用
した。しかしそれでも謝長廷氏は北京語を使用する意識が蘇貞昌氏より強い一方、ホーロ
ー語と客家語の使用意識に対する意識は蘇貞昌氏の方が強い。謝長廷氏は北京語が強勢言
語である台北市で生まれ育ち、長期に政治活動に携わっているのも台北市である。そうい
った背景は謝長廷氏が演説する時北京語がホーロー語より使用割合が高い要因だと考え
られる。一方、蘇貞昌氏は台湾最南部である屏東縣で生まれ育った。出身地が候補者の言
語選択に影響する要因であるため、屏東縣でホーロー語がよく使われており、客家語を使
用するグループも一定数存在することが蘇貞昌氏の選挙晩会に行う演説の言語意識に影
響を与えていると考えられる。

⁶² 民進党の結成されていなかった時期。

しかし、候補者の演説における言語使用に影響する要因は単に候補者の背景だけではなく、演説を行う地域における族群の構成も候補者の言語使用に影響する。謝長廷氏のホーロー人が多数である台中市と台南縣での演説における主な使用言語はホーロー語である。一方、ホーロー人が多い地域で蘇貞昌氏はホーロー語を主に使用していたが、北京語が強勢言語である台北市でもホーロー語の使用割合が高い。つまり蘇貞昌氏は台北市で演説を行うとき、個人的背景の要素が蘇氏の選挙戦略に影響していることがうかがえる。Howard Gilesにより提唱しているアコモデーション理論によると、候補者は聞き手の情報により演説内容、言葉を調整する。新竹縣での演説に客家人の割合が最も多いという要因に民進党所属二名の候補者の言語選択が影響され、客家語が流暢に話せない謝長廷氏と蘇貞昌氏はホーロー語を中心に演説を行うと反発を買う可能性を考えた上、北京語で演説を行うようにしたのである。これは聞き手の構成が候補者の言語選択に影響を与える最も明らかな例だと考えられる。

候補者の個人的背景と演説する地域の族群構成は謝長廷氏と蘇貞昌氏の演説における言語使用の割合に相互に影響することが今回の研究で明らかになった。また、候補者はどんな言語で演説するかということも、その地域の言語使用状況を反映するといえるであろう。

6.2. 今後の課題

本研究は謝長廷氏と蘇貞昌氏が台湾四つの調査地域で行った選挙晩会の演説内容に基づき、民進党が推薦したこの二名の候補者の選挙晩会における言語使用および話題使用その実態について論じた。本節では、今後の課題を検討したい。

第一の課題は、調査対象の政党所属範囲の拡大である。今回の研究は国民党から情報蒐集が困難であったため国民党所属候補者の演説における言語使用の考察を断念し、調査対象を二名の民進党所属候補者のみにしぼった。今回の調査結果は決して台湾における選挙活動における政治家の言語使用実態を充分説明したとは決していえない。あくまでも民進党所属候補者の言語使用実態を明らかにしただけである。この研究を継続していく上では、より幅広い政党所属の候補者を対象に調査を行う必要がある。

第二の課題は、候補者の出身範囲をより広げることである。本研究の調査対象である2008年総統選挙立候補する謝長廷氏と蘇貞昌氏にとって、ホーロー語と北京語が最も熟達した言語であることは疑うまでもない。そのため、候補者の出自言語に偏りがあることは否定できない。今後の研究に候補者の出身範囲をより広げることが必要とされるであろう。

う。例えば客家出身の候補者あるいは原住民族出身の候補者、さらに海外から台湾に移住する海外出身者⁶³が総統選挙のような全国的選挙活動での言語使用を分析する価値があるであろう。

第三の課題は、調査地域を広げることである。本研究では台湾の北部、中部、南部と客家地域を調査地域に設定した。台湾東部は距離と移動の困難さに制限され、今回の調査地域に入れなかった。台湾東部の人口においては原住民族の割合が高いため、台湾の政治家の原住民地域での言語使用状況を明らかにしていく上で、花蓮、台東など地域における選挙晩会の演説使用言語の調査は不可欠である。

第四の課題は、継続的な調査研究である。2008年の総統選挙に、国民党候補者馬英九氏は58.45%の得票率で当選したのに対し、民進党八年間以来の政権は再び国民党に移ることになった。民進党政府が推進した郷土言語政策、客家テレビ放送局、原住民テレビ放送局の成立は国民党政府の下でどのような変化が現われるかに注目したい。また台湾社会における各言語の地位は政府の執権者の移転によってどう変化するのか、しないのかも注視していきたい。台湾意識を主張している民進党は2008年の総統選挙に負けた後、もう一度人民の信用を得るため選挙の手段をどう変え、この変化は選挙活動における言語使用にどのように反映されるかも研究課題となるだろう。現在の台湾は多言語社会でありながら、この移り行く過程を追うため継続的な調査研究はなくてはならない。

6.3. むすび

過去の言語政策のもとで、北京語以外の言語は公的場での使用が禁止され、筆者は小学生の頃学校でホーロー語を話したため担任先生に罰された経験があった。しかし、民主化の発展とともに、台湾における言語使用の制限が解除された。2000年に民進党が総統選挙に勝った後、台湾社会の気風も変わった。ホーロー語、客家語を話すことは軽視されなくなり、ホーロー語で発音するドラマはさらにこの数年の間に台湾のドラマの主流となり、かつて有名な俳優はホーロー語が話せないため舞台を失って中国大陸に行くことになった。そのような時代の流れに、台湾の政治家は人民の支持を求めるため自らの出身と関係なく、聞き手の出自言語を話すことで相手と「搏感情（親しくする）」する。「搏感情」という語彙はホーロー語で発音する言葉を北京語で書くものである。そもそも北京語では「搏感情」ということばはなかったが、これも台湾社会の中で多言語混用の結果、生み出

⁶³ 2009年の台北市大安区立法委員補欠選挙に台湾緑党（GREEN PARTY TAIWAN）はアメリカから台湾に移民した環境保護主義者文魯彬を推挙しようと言う作戦が話題になっていた。（台湾緑党公式ウェブサイト参照 <http://www.greenparty.org.tw/index.php?itemid=1022> 2009年4月15日に検索）

された言葉である。

筆者が今回台湾の選挙における政治家の言語使用に対して研究調査を行った一つの理由は、もともと他の言語を話せない、あるいは学ぶ気もないたくさんの政治家が選挙する時だけ自分の母語ではない言語でアピールしたり、自分こそ「愛台湾（台湾を愛する）」だと強調したりすることを強く感じて、その実際の状況を明らかにしようと調査を行った。政治家が選挙時期に発表する政策や言論はよく「政治言語」と言われるが、その「政治言語」は本当に一つの「言語」の意味ではなく、政治家はある時期である目的を果たすため、ある発言をすることで話題を作ったり、自分の立場を表明したりする。しかし「言語」と「政治」は確かにはっきり分けられないのである。228 事件の時代に、本省人は見知らぬ人の出身を区別する一つの方法は相手がホーロー語を話せるかどうか確認することであった。例をあげると、1989 年製作した 228 事件を語る映画「悲情城市」で、哑者である主人公は汽車の中で数人の本省籍男性と出会い、本省籍男性たちの中に一人は主人公にホーロー語を話せるかどうかを聞いていたが、主人公は口が利けないため外省人だと間違えられ殴られそうになるシーンがある。過去に敵と味方を見分ける方法と考えられていた「言語」は現在の台湾社会においては形のない身分証明書となり、政治家は選挙活動を行うとき一地域の出自言語を地元で少しでも話して見せないと聞き手が認めてくれない。洪(1992)は族群と族群の間における言語の使用について以下のように指摘している：「言語区別と民族文化の区別はいつも重なっているため、言語自身にいつも民族文化の感情が付け加わっている。ある種類の言語を話すことが好きであることは、いわゆるその言語を持つ所有者の民族、文化を認め、親近感を持つことを指している。逆にある種類の言語を軽視したり、敵視したりすることもいわゆるその言語を持つ所有者を軽視し、敵視しているのである」(洪 1992:152)。

台湾ではある諺は「見人説人話、見鬼説鬼話」という。字面からの意味は人間と会う時には人間がわかる言葉で話し、鬼と遭う時には鬼がわかる言葉で話す。つまり人と話す前に相手はどんな人かを把握した上で自分の話し方を調整することである。この諺の元々の意味は人がよく変わることを皮肉る言葉であるが、台湾の政治家の選挙時期における言語行為を説明するのに適切な言葉である。ホーロー人が多数である地域でホーロー語を積極的に使い、客家地域ではならば客家語で挨拶する。うまく話せなくてもせめて当地の人々にこの候補者は本気で「我々の言葉」を話そうと努力していると思われるような態度を示すのである。こうした現象も一地域の言語使用状況を反映している。今回の調査で、客家地域である新竹県における候補者の言語使用に対し、ホーロー語で話すよりも北京語のほ

うが新竹縣の客家人に受け入れられた。つまり客家族群は北京語に対して比較的妥協な態度を持っていると考えられる。

2000年以來民進党政府は人民から長く支持してもらえるように、多元文化政策と本土化を強調した主張の基に、客家委員会(2001年に設置)、原住民委員会(1996年に設置、2002年に行政院原住民委員会に改名)などの機関が設置された。2009年の現在国民党の馬英九氏が総統に就任するとともに、国民党が政權を民進党から取り戻した。民進党が続けていた多元文化政策は今後どのように転換されていくのであろうか。未来の台湾社会を考えるとホーロー人、外省人、客家人と原住民諸族以外にも、外国籍配偶者、いわゆる「新住民⁶⁴」の台湾での増加も無視してはいけない。新住民の増加は台湾に元々に存在している四大族群の概念を打ち破り、言語と言語の地位にまた新たな変化が現れるだろう。特に新住民も選挙権を持つ有権者になると、政治家は支持を得るため、選挙時期での言語使用にあらたにどんな変化が見えるのであろうか。族群と政治とは簡単に切り離せない関係で、政權に与する政党、与党の政策により族群と族群の間に地位の変化が影響されていく。今後とも台湾にどんな影響を及ぼしていくのかを観察し続けようと思う。

⁶⁴ 台湾台北縣の就業服務中心ホームページに「新住民就業協力サービス」のタイトルに新住民の後ろに(外国籍、大陸配偶者)に注している。(http://www.goodjob.tpc.gov.tw/esc/newp.htm2009年4月23日検索)

【参考文献】

(日本語文献)

- 東照二 (1997). 『社会言語学入門』、研究社.
- 飯野公一他 (2003). 『新世代の言語学』、くろしお出版.
- 何義麟 (2007). 「戦後台湾における日本語使用禁止政策の変遷—活字メディアの管理政策を中心として」古川ちかし・林珠雪・川口隆行 (編)、『台湾・韓国・沖縄で日本語は何をしたのか』、三元社、pp58-83.
- 河村裕之 (1998). 『「認同」維持の求心性—台湾客家系漢人の自己主張運動を実例に—』、関西学院大学大学院社会科修士論文.
- 河村裕之 (2005) 「台湾における客家の自己主張運動」、『南島史学』第 65・66 合併号、pp. 209 - 220.
- 簡月真 (2002). 「台湾における言語接触」、『社会言語科学』第 4 卷・第 2 号、pp. 3-20.
- 田中克彦 (1981). 『ことばと国家』、岩波新書.
- 藤井 (宮西) 久美子 (2003). 『近現代中国における言語政策』、三元社.
- 藤井 (宮西) 久美子 (2007). 「1990 年以降の台湾における言語政策の転換—『教育部公報』の分析を主として」、『宮崎大学教育文化学部紀要. 人文科学』、第 16 号、宮崎大学教育文化学部 pp. 67-79.
- 藤田美佐 (2008) 『台湾客家系漢人の言語使用について—屏東縣内埔郷を基盤とした客家人一族に対する調査を中心に—』、東海大学日本語文学系大学院修士論文.
- 松尾慎 (2006). 『台湾における言語選択と言語意識の実態』、群学出版.
- 松尾慎 (2007). 「台湾・客家系住民にとってのホーロー語と客家語」、『静宜大学日本語文学系 紀要』日本学と台湾学第六号 pp. 25-43.
- 松尾慎、楊景福、莊雅婷、沈宏達 (2008) 「台湾における「郷土言語教育」の実態—台中市公立小学校における調査より—」、『社会言語科学会第 21 回大会発表論文集』、社会言語科学会、pp. 328-331.
- 丸川哲史 (2000). 『台湾、ポストコロニアルの身体』、青土社.
- 横川彰 (2008). 『日本統治下における日本語経験者にとっての母語—Tove Skutnabb-Kangas/Robert Phillipson の母語の観点から—』、東海大学日本語文学系大学院修士論文.
- 林欣儀 (2000). 「台湾における言語使用—政治意識という観点から—」、『待兼山論叢』第

(中国語文献)

- 王崇名(2004). 『社会学概論－蘇菲與佛諾那斯的生活世界』、三民書局.
- 王榮霖(2008). 『脫胎換骨－馬英九的政治長跑與總統路』、凱特文化出版社.
- 王振寰(1996). 『誰統治台灣?轉型中的國家機器與權力結構』、巨流出版社.
- 李喬(1988). 『台灣人的醜陋面』、前衛出版社.
- 李喬(1992). 『台灣文化造型』、前衛出版社.
- 李筱峰(2007). 『我的覺醒只是一為了自己管理自己 李筱峰政論精選』、玉山社出版社.
- 洪惟仁(1991). 『台灣方言之旅』、前衛出版社.
- 洪惟仁(1992). 『台灣語言危機』、前衛出版社.
- 施正鋒(1999). 『台灣政治建構』、前衛出版社.
- 施正鋒(2000). 『台灣人的民族認同』、前衛出版社.
- 施正鋒(2002). 『台灣民主鞏固的擊劃』、前衛出版社.
- 施正鋒(2003). 『語言政策及制定語言公平法之研究』、前衛出版社.
- 施正鋒/張學謙(2003). 『語言政策及制定語言公平法之研究』、前衛出版社.
- 郭琮淵(2006). 『國民黨與民進黨政黨形象之跨時性分析』、東吳大學政治學系修士論文.
- 郭瓊俐(2007). 『逆中求勝:謝長廷的生命美學』、天下遠見出版.
- 高格孚(Corcuff, Stéphane)(2004). 『風和日暖:台灣外省人與國家認同轉變』、允晨文化實業公司.
- 陳重生(2008). 『峰迴路轉－謝長廷的政治攀岩與總統路』、凱特文化出版社.
- 陳原(2001). 『語言與社會生活:社會語言學』、台灣商務出版社.
- 陳啓民(2000). 『國民黨對外省族群的統治分析政治』、政治大學政治學系修士論文.
- 殷海光基金會編集(1998). 『民主・轉型?台灣現象』、桂冠叢刊.
- 黃宣範(1995). 『言語、社會與族群意識－台灣語言社會學的研究』、文鶴出版社.
- 黃煌雄編集、台灣研究基金會執筆小組執筆(2006). 『人民の力量－蘭陽平原的兩月四十八天』、玉山社.
- 游梓翔(1999). 『演講學原理－公眾傳播的理論與實際』、五南圖書出版公司.
- 薛化元(1999). 『台灣開發史』、三民書局.

(英語文献)

Giles, H. and N. Coupland. (1991). Language: contexts and Consequences. Open University Press.

Holmes, Janet. (2001). An Introduction to Sociolinguistics. New York: Longman.

Katz, Richard S (1980). A theory of parties and electoral systems. Baltimore: Johns Hopkins University Press, pp. 17-31.

(参考ウェブサイト)

BBC 中文網

http://news.bbc.co.uk/chinese/trad/hi/taiwan_hk/default.stm

中央選舉資料庫ウェブサイト

<http://210.69.23.140/cec/cehead.asp>

行政院客家委員會客家人口調査

<http://www.hakka.gov.tw/ct.asp?xItem=6918&CtNode=1671&mp=298&ps=>

民進黨公式ウェブサイト

<http://www.dpp.org.tw/>

新竹縣政府公式ウェブサイト

<http://www.hsinchu.gov.tw/>

蘇貞昌個人公式ウェブサイト

<http://www.eball.org.tw/>

台中市政府公式ウェブサイト

http://www.tccg.gov.tw/sys/SM_theme?page=3fcc4395%20

台北市政府公式ウェブサイト

http://www.taipei.gov.tw/cgi-bin/SM_theme?page=483f9393

T V B S 民調中心ウェブサイト

http://www.tvbs.com.tw/news/news_poll.asp?p=1&k=0

參考資料

演說內容（一部）

謝長廷氏

民進黨台北市選舉晚會（2008. 3. 21）

謝謝，感謝，感謝。相信明天晚上，明天仔晚投票之後，還能聽到這麼美妙的聲音。剛才，我們看到李前總統、李遠哲院長、林義雄先生，他們對我的期待，對我的支持。我金感謝，也金感激，更加感動，因為他們支持的，不是我個人，也不是蘇貞昌個人。他們支持的，也不是民進黨，他們支持的，是台灣的未來跟核心價值。

我今天去掃街，看到有的街上有貼國民黨的布條，說全台都在聽九萬，我覺得應該不是，是中國在聽九萬，是胡錦濤想要聽九萬，我們全台灣的人民，都想要聽一個聲音，就是我們要創造一個生命的美學、一個人生的奇蹟、政治的奇蹟，那就是逆-轉-勝。謝謝。今天倒返來我出生ㄟ台北市，非常ㄟ感慨。我在這出生，在這讀小學，在這讀國中，在這讀高中，在這讀大學。我在這娶妻結婚，我取台北縣中和ㄟ女兒游芳枝，做我ㄟ牽手。這個土地上頭，有我的笑聲，有我的眼淚，在這有很多快樂ㄟ回憶，也有金多傷心ㄟ往事。

我甲大家同款，我的祖先，來自中國福建；我的七代祖，我的七代祖，謝光毅，是將軍啊。我的六代祖謝建庸，也是將軍。他做過澎湖的副總兵，做過駙馬，淡水的守備，也住過台南。我的五代祖謝深遠開始，甲大家同款就在在這開基，葬在觀音山。我的曾祖父我的祖父，我的爸爸我的媽媽，我太太的爸爸我太太的媽媽我太太的祖父，攏埋在台灣。台灣是我的故鄉，台灣是我唯一的選擇，台灣是我的祖國。

但是台灣是個移民社會。有的早來有的晚到，沒有關係。我們很多的外國配偶、外籍配偶，也是台灣人。他們是我們台灣之子的母親，我們把他認同，有很多客家人，還有我們最早的主人原住民，還有外省人，其實攏是台灣人。我們不應該再分彼此，我們有不一樣的過去，但是未來我們有同樣的命運。

所以我有答應李院長，我也答應李前總統，我如果當選總統，我要宣佈惡鬥的時代過去啦。我要宣佈一個共生和解的時代的到來啊。我會以最快的速度，彌補社會因為選舉，因為政治引起的對立跟裂痕，我也會尊重國會的多數，來任命院長。讓我們的政局安定，乎企業能夠安心來經營，乎媽媽能夠安心來生活，乎咱全國ㄟ人民攏能夠安心來生活啦。

我如果落選，我已經講過，這可能是我人生最後一次的選戰。也許也有可能是台灣最後一次選總統，如果我落選。但是不管怎麼樣，我跟我的家人，我都會留在台灣，跟大家守住台灣，跟大家同一命運。我講過我的祖先來台灣，就是在做台灣的守備、總兵，在守護台灣。我會走我祖先的路，我沒有綠卡我太太也沒有綠卡，我的兒女也沒有綠卡，我們也沒有公民。台灣是我們唯一的選擇，我們都會留在台灣，即使台灣變成西藏第二我也會留在台灣。

我最近提起馬先生的綠卡，這不是負面選舉。我年輕的時候，我是在日本留學啊，我在日本留學ㄟ時候，那時金多越南，越南的學生也在那裡留學。我在留學ㄟ時候，越南淪陷。但是我那些在留學那些ㄟ同學，我看都是越南大官ㄟ兒子。他們攏出去外國，但是我看到越南ㄟ難民，一般的人民，在海上漂泊。全世界到處要求國家收留越南的難民啊。日本、美國、許多國家都來收容難民，我那時候就覺得，對人民來講，實在是不公平。但是我嘛覺得說，老爸這好額人ㄟ老爸，大官ㄟ老爸，這些權貴把他們的兒女送到日本送到美國，講起來也是人性之常啦。人生，求生的本能啦。就是麥求生啊。所以那個時代，金多權貴，台灣ㄟ權貴，嘛是將兒子、女兒送去美國啊，拿綠卡啊，拿公民啊，其實在那個大時代，也可以理解啦。也可以理解。當然最近有一些老兵，眷村ㄟ老兵寫批乎我，說很不甘願啦。等於是被欺騙了這麼多年啊。喔原來他們講，「莊敬自強」那他們口袋有綠卡啊。要我們處變不驚。喔原來我們赤身裸體，他們有救生圈啊。他們有救生圈。叫我們同舟共濟啊。很多老兵覺得被背叛，但是各位，在那個大時代，多少的有錢人，多少的大官，把子女送出去。父母愛子女啊，我們也可以了解。

但是今天，你要選總統的人，你一定要把這個外國的居留權來放棄，辦個清清楚楚，對人民才公平嘛。我們認同所有人都做台灣人，但是台灣人，要同心肝啊。台灣人要有同款ㄟ運命啊。麥做總統ㄟ人，就要甲大家同款運命啊，你要把這個生命，跟這個土地上所有的人結合在一起，才有資格來當總統啊。

如果現在，還不願放棄美國的居留權，這個沒有誠意啊。這個沒有誠意啊。如果馬先生不放棄，他當選了總統，他可能是全世界，美國以外唯一擁有美國居留權的總統啊。這個是個可恥的事情啊。馬先生。我再三的要求，他只要AIT美國在台協會辦30分鐘，就可以辦放棄居留權啊。他可以放棄啊，他現在就可以放棄啊。他不願放棄，他跟我們打混戰，他就說「啊我的卡片失效啦」、「啊我的護照四本給你看啊」、「啊我的簽證給你看啊」。你可以去辦一張

公文 30 分鐘，我們人民有義務要看你四本護照嗎？你今天要選總統，你有義務，把這個美國的綠卡跟居留權的事情，辦清清楚楚再來選總統啦對不對啊？

如果，如果你不是不要辦完，你還想保留一個美國的居留權，隨時可以溜到美國。當我們台灣有什麼事的時候，你們夫妻是隨時可以溜走的。那你想想看，這不是欺騙我們台灣人民的感情嗎？這對台灣人民公平嗎？所以今天他又開記者會，他很怕美國在台協會的前處長，來跟他講說他的居留權有效。他很怕。他為什麼要怕咧？各位，大家想想看，蔡同榮委員講說，如果他的居留權無效，他要辭掉立委。我說如果他拿的出一張公文，說他的美國居留權在 20 年失效，我要退出總統選舉。他拿不出來。但是大家想想看，到現在為止，有沒有任何一個國民黨的立法委員，敢為馬英九先生背書？說他的美國居留權綠卡還有效他們要辭掉立委，有沒有人敢背書？沒有人敢背書啊。對不對啊？

事實已經很清楚了嘛。美國國務院的外交手冊寫的很清楚啊，你拿非移民簽證不代表你的居留權失效啊。你沒有換卡片，只是卡片要再換新，居留權也沒有失效啊。請問馬先生，你保留那個拘留全要幹什麼咧？這個對台灣人民是一個很不公平的，他居然不願意放棄。我們叫他好好的去美國居住，沒有關係。我們總統一票都不能投他，好不好啊？

我們台北市市民，這一次面臨選舉的一些困局啦。馬先生，是老市長。也很多人，很多里長很有感情。我是老台北啊，我在這裡做 15 年的民意代表，也很多人跟我很有感情。國民黨放話，他說台北市要給我贏 25 萬票以上ㄟ。沒有關係，我尊重台北市民的選擇。但是我要告訴大家，今天最後一夜，有些話我要講清楚，其實，我們對馬英九先生，太好啦。其實我們一再包容他，在十年前，當時陳水扁市長並沒有犯什麼錯啊，也沒有什麼國務機要費的問題啊，那時候陳水扁總統全國滿意度排名第一，第一名ㄟ，80 幾分。那時候ㄟ行政效率在台北市是足高ㄟ，那時候服務是改善卡足好ㄟ，治安是足好ㄟ。但是，但是台北市民，放棄陳水扁，沒乎陳水扁連任，咱選擇馬英九。為什麼？大家說是結構性問題。什麼結構性問題啊？所以陳水扁就這樣變總統。就變總統。馬英九做市長，自第一名作到第八名。大家嘛說沒關係，大家攏足疼他ㄟ，馬英九圓環做無好，圓環到現在還關門，阿大家說關門也沒關係啦…那個現在包起來也可以啦。龍山街弄到變一個廢墟，下面攤商倒光光，剩幾個相命ㄟ相來相去。大家嘛說可以啦，對啦這樣比較方便。晚上足多人在那建議公共廁所，大橋興市場、西門市場、內湖線、蘆洲線、新莊線，進度只有百分之 36。市民的抱怨，嘛是原諒他啊。我們都原諒他。我們大家想想看台北市的父老兄弟，今天如果是陳水扁夫妻擁有綠卡，你們會原諒他嗎？如果今天陳水扁ㄟ女兒是美國的公民，然後在選舉的那一天還要回來造勢，還要回來說他表示他可以放棄，你們會不會原諒他？你們都不會。但是這個就是我們台

灣的雙重標準。所以造成這八年的兩黨的惡鬥。挺扁，反扁；挺馬，反馬。因為大家要保護馬英九啊。要培養他來選總統啊。今天，當年選馬英九當市長的時候，馬英九沒有什麼政績啊，馬英九民國 85 年剛做完法務部部長啊，他 87 年選台北市長，他 82 年到 85 年做法務部長，是台灣治安最黑暗的一段。鄭太吉打死人，在人家的媽媽的面前打死兒子，開 16 槍；吳鶴松高雄縣的議長被打死，開七槍。有四五位縣市議員都被打死，那時候重大案件、暴力案件增加三倍，而馬市長把一些重大的犯人假釋從二分之一降為三分之一。本來一年只有六千八百個人假釋，他當法務部長期間變成一萬九千人耶。所以很多善良的老百姓很多婦女，很多弱勢者在黑暗中哭泣啊。求助無門啊。那個時候全國黑道都漂白啊。一直到他下台，86 年治安壓不下來，發生陳進興的案件，發生彭婉如的案件，發生劉邦友的案件。87 年他當市長，大家也沒有怪他。我們都很疼他啊。我們都愛說要換人做做看啊，總統要換人啊。他陳水扁換成馬英九，我們都已經知道了嘛對不對啊？

自從第一名變成第八名啊，台北市在他的任內，首長七年換了 42 個啊。我們都在罵陳水扁，說陳總統換人換來換去、變來變去；其實馬先生變的更快，一日三變，昨天說有今天說沒有，早上說沒有晚上又變成有。所以網路說到底有沒有要問馬英九啊。但是我們，我們大家還支持他，但是現在我告訴大家，現在不是換個市長啊，這個總統馬先生要把我們帶到一中原則、一中市場，這是關係，關係到我們子孫的命運，我們不能草率啊，對不對啊？

有人說馬先生的經濟，他的經濟就是共同市場啊。他可以做的，我都可以做；而且我可以做的更好，做的比他好。經濟成長率 6%，以我們現在的規模，我們去年的下半年就是 6.7% 啦，我們都能做啊。我們都能成長啊。我們未來，幸福經濟，不必像他要去舉債，不會造成物價上漲，不會讓薪水階級跟公務員來受苦，這是我的幸福經濟。如果我當選，我要去除人民高物價的痛苦、沒有房屋住的痛苦、失業的痛苦、債務負擔的痛苦，然後我們吸引全國的資金到台灣，我們改善我們的投資環境。我們降低我們的各種稅率，連帶連薪水階級的負擔，薪水階級的稅率都降低，好不好？我可以做，而且我可以做的更好。

最後，我要告訴大家，馬先生，他不是綠卡的事情變，不是國家前途的主張變，你看我們今天看報紙、看新聞，他連他的信仰都變。他的牧師來講說他有受洗耶。他聲明說他沒有受洗。不但沒有受洗，人家說「你有受洗啊。」他說「牧師水給我潑在頭上，我不知道什麼事情啊」，這是侮辱宗教啊。所以李前總統說「沒有一個堅定、誠懇的態度來面對他的信仰」。他更變的還是公投。他去年的九月 15 日，捲起褲管穿著藍白拖去遊行，說要推動中華民國重返聯

合國。你現在有沒有看到他在講?沒有啊。他不但沒有在講，他默認國民黨、立法委員、國民黨、縣市長擺在發起拒領公投啊。你今天說我民進黨入聯公投不好，你說阮、菜壞，啊你自己開個菜單，說喔這個菜卡好。現在連你自己的菜，也不要煮啦，啊麥乎大家餓死咧。所以現在他的目的，就是讓台灣沒有出路，

各位，我們的祖先四百年，就是要追求自由的夢，要追求當家做主在這裡安身立命的夢。但是過去，我們沒有力量，咱過去無力啊。所以祖先一代一代，抵抗擺乎殺啊。擺無力通好做主人啊。無力通好選擇咱、命運啊。我們想要把命運由自己來決定，但是我們沒有力量啊。今天我們可以選擇，可以公投，我們不應該放棄嘛，對不對啊?

今天我們公投的人不夠，今天馬先生當選，後天的世界新聞會怎麼報導啊?台灣人民放棄加入聯合國的公民投票。台灣人民選擇一個親中、主張一中、主張一中市場的馬先生當選。主張台灣主權獨立的謝長廷落選，這是我們台灣的利益嗎?這不是我們台灣利益，這是中國的利益嘛。今天中國說台灣是他們的一部分，全世界都聽到了，我們在這裡演講，全世界聽不到。但是我們如果我當選，全世界都聽的到啦，對不對啊?

所以這不是我個人的選舉，也不是蘇貞昌先生的選舉，我有講過，台灣即使大家不聽不同意我的話，台灣有什麼命運，台灣發生什麼事，我願意跟大家一起承擔。但是我們還來得及啊，我們還來得及啊，我們不要放棄啊，大家明天通通來投票，通通來拉票，好不好?

拜託大家，一起來拉票。感謝大家，謝謝大家，我們一定會勝利啦。

謝辞

本論文の執筆のために、ご指導を頂いた諸先生方並びにお世話になった方々に心から感謝の気持ちを申し上げたい。

松尾慎先生には大学時代から、いろんな指導を賜り、不器用な私に常に暖かい励ましとお心遣いを頂きました。松尾慎先生は指導教官として私の研究の方向性を導き的確なご指導をしてくださいました。社会言語学に対して全く知識のなかった私に丁寧にご指導くださった先生に、心から感謝の気持ちをお伝えしたい。

林珠雪先生、工藤節子先生には本論文の審査を引き受けていただき、励ましの言葉、貴重なアドバイスを賜りました。各先生に感謝の気持ちをお伝えしたい。また、修士論文の最終試験に際し、司会をして頂いた王怡人先生にも大変お世話になりました。

藤原智栄美先生には常に励ましの言葉やアドバイスを頂いて、日本での学会発表でも大変お世話になりました。

淡江大学の富田哲先生には東海大学との合同ゼミの場で論文構成に関して様々なご意見を頂きました。合同ゼミに参加した学生達から同様に研究に関して貴重なアドバイスももらい、本当にありがとうございました。

その他、東海大学日本語文学系の先生方から多くのご指導と励ましの言葉を頂きました。同じく東海大学日本文学系大学院生である横川彰さん、藤田美佐さん、志村理子さん、吉田藍さん、富永悠介さん、大内宏信さん、村上生紗さんに草稿に目を通してもらい、日本語のチェックを頂きました。また、一人一人の名前を書くことはできませんが、学部時代の仲間たちと院生の仲間たちに巡り会えたことに心から感謝の気持ちをお伝えしたい。あなたたちの暖かい支えがあったからこそ、本研究が完成できました。

そして本論文の調査に協力を頂いた民進党中央党部、国民党中央党部および台中市党部の方々に感謝の気持ちを申し上げたい。